

多根総合病院

2024 年度年報

目 次

病院概要	2
内 科	4
総合診療内科	5
循環器内科	5
消化器内科	7
脳神経内科	9
外 科	10
緩和医療科	14
整形外科	15
脳神経外科	16
小児科	19
泌尿器科	20
皮膚科	20
婦人科	21
耳鼻咽喉科	21
形成外科	24
歯 科	25
麻酔科	26
放射線診断科	27
放射線治療科	29
救急科 (ER)	31
腫瘍内科	31
DS (日帰り手術) センター	32
看護部	34
薬剤部	37
医療技術部 中央検査部門	39
医療技術部 臨床工学部門	40
医療技術部 リハビリテーション部門	41
医療技術部 栄養管理部門	42
医療安全管理部	45
医療技術部 内視鏡部門	46
感染制御部	48
卒後臨床研修センター	48
事務部	49
各科医師スタッフ 資格一覧	51
学会発表	56
執筆・論文	78

〒550-0025 大阪市西区九条南 1-12-21

TEL：06-6581-1071 FAX：06-6581-2520

交 通：電車

JR 環状線大正駅

または大阪メトロ長堀鶴見緑地線大正駅下車

または阪神なんば線ドーム前駅下車徒歩 8 分

大阪シティバス

なんば駅前（60）天保山行、境川下車すぐ

大阪駅前（88）天保山行、境川下車すぐ

淀屋橋駅前（107）弁天町バスターミナル行、境川下車すぐ



【病院概要】

院 長	小川 稔
開設日	1949 年（昭和 24 年）10 月（1969 年 7 月に総合病院の名称承認）
病床数	304 床
標榜科目	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・脳神経内科・疼痛緩和内科・外科・呼吸器外科・消化器外科・内視鏡外科・乳腺外科・肛門外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・泌尿器科・婦人科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科・臨床検査科・救急科・小児科・皮膚科・麻酔科・歯科・神経眼科
土地・建物（㎡）	敷地面積：5,514.29 ㎡ 延床面積：23,389.81 ㎡
指定・認定関係	大阪府がん診療拠点病院、厚生労働省指定臨床研修指定病院、災害拠点病院 臨床検査技師実習指定病院、薬剤師実務研修施設、看護学校実習指定病院 救急告示病院（二次救急指定病院）、病院群輪番制病院、マンモグラフィ検診施設 大阪公立大学医学部臨床実習施設、大阪医科薬科大学臨床教育協力機関 兵庫医科大学第 6 学年次「自由選択実習」協力施設 新専門医制度専門研修プログラム内科領域基幹施設 日本内科学会認定教育関連施設、日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設、大阪府肝炎専門医療機関 日本大腸肛門病学会認定施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）、日本緩和医療学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳神経外科学会専門医研修施設、日本脳卒中学会専門医制度研修教育施設 日本脳卒中学会認定 一次脳卒中センター、日本神経学会認定教育施設 日本整形外科学会認定医制度による研修施設、日本手外科学会関連研修施設 日本泌尿器科学会拠点教育施設、日本麻酔科学会認定病院 日本形成外科学会認定施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽喉系） 日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設 日本医学放射線学会 放射線科専門医修練機関 日本放射線腫瘍学会認定施設、日本病院総合診療医学会認定施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設、日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム専門療法士認定規定認定教育施設

	日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
基準関係	<p>一般病棟入院基本料（7対1）、臨床研修病院入院診療加算、救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算、超急性期脳卒中加算、診療録管理体制加算、医師事務作業補助体制加算（15対1）、急性期看護補助体制加算（25対1）、夜間100対1急性期看護補助体制加算、療養環境加算、重症者等療養環境特別加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算1、感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、退院支援加算1、退院支援加算2、救急搬送患者地域連携紹介加算、救急搬送患者地域連携受入加算、呼吸ケアチーム加算、病棟薬剤業務実施加算、データ提出加算2（イ）、特定集中治療室管理料3、ハイケアユニット入院医療室管理料1、緩和ケア病棟入院料、短期滞在手術基本料2、歯科外来診療環境体制加算、糖尿病合併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料1、がん患者指導管理料2、糖尿病透析予防指導管理料、院内トリアージ実施料、夜間休日救急搬送医学管理料、外来リハビリテーション診療料、外来放射線照射診療料、ニコチン依存症管理料、開放型病院共同指導料、がん治療連携計画策定料、薬剤管理指導料、診療情報提供料（I）の検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報、医療機器安全管理料1、医療機器安全管理料2、歯科治療総合医療管理料、在宅療養後方支援病院、造血管腫瘍遺伝子検査、HPV核酸検出、検体検査管理加算（I）、検体検査管理加算（IV）、ヘッドアップティルト試験、神経学的検査、センチネルリンパ節生検、遠隔診断、画像診断管理加算2、CT撮影及びMRI撮影、冠動脈CT撮影加算、心臓MRI撮影加算、乳房MRI撮影加算、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算1、無菌製剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料（I）、脳血管疾患等リハビリテーション料（II）、運動器リハビリテーション料（I）、呼吸器リハビリテーション料（I）、がん患者リハビリテーション料、歯科口腔リハビリテーション料2、処置の加算、手術の加、CAD/CAM冠、乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2、骨移植、経皮的冠動脈形成術、経皮的ステント留置術、ペースメーカー移植術及び交換術、大動脈バルーンパンピング法、体外衝撃波胆石破碎術、体外衝撃波膀胱石破碎術、腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術、膀胱水圧拡張術、人工尿道括約筋植込・置換術、点数表手術の通側5及び6の手術、輸血管理料I、輸血適正使用加算、人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算、麻酔管理料（I）、放射線治療専任加算、外来放射線治療加算、高エネルギー放射線治療、1回線量増加加算、強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療加算、体外照射呼吸性移動対策加算、直線加速器による定位放射線治療、定位放射線治療呼吸性移動対策加算、病理診断管理加算I、口腔病理診断管理加算I、クラウン・ブリッジ維持管理料、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術、組織拡張器による再建手術（乳房）、入院時食事療養（I）</p>
第三者評価	財）日本医療機能評価機構認定病院

（2025年3月現在）

◆内 科

【部署概要】

当院の内科は消化器内科、循環器内科および総合診療内科（感染症内科、糖尿病内科等）の各科が協力して入院診療を行う体制になっている。それに加えて外来では呼吸器内科、代謝内分泌内科、肝臓内科、膠原病内科および血液内科の専門の医師が診療に従事している。各科の医師は専門性を高めつつ、内科全般を診ることで、多根総合病院の特色を出している。研修医を修了した後も専攻医として内科に籍を置いて専門性を高める若い医師や、大学医局からの医師派遣とがあいまって内科医師数が年々増加していることは大変喜ばしい。どんどん新しい分野にチャレンジしていく風土を築いていきたい。

【診 療・部署体制】

【スタッフ】

瓦林 孝彦	副院長／内科統括部長
浅井 哲	消化器内科・内視鏡センター部長
土井 淳史	循環器内科部長
岩村 世晴	循環器内科部長
高宮 みさき	感染症内科部長
新田 洋介	内科副部長
高岡 奈央子	循環器内科副部長
赤峰 瑛介	消化器内科副部長
中尾 栄祐	消化器内科副部長
竹下 宏太郎	消化器内科副部長
松尾 健司	消化器内科医長
田中 佐和	循環器内科医長
大舘 秀太	消化器内科医長
塚本 拓也	医局員
藤田 裕真	医局員
橋村 友哉	医局員
久松 健人	医局員
茶園 歩夢	医局員
杉岡 和哉	医局員
小泉 葵	医局員
松原 佳穂	医局員
橋本 沙優里	医局員
川崎 健生	医局員

【特 色・トピックス】

循環器内科に新たに岩村世晴部長、高岡奈央子副部長を迎え虚血性心疾患に対するオンコール体制が整ってきた。

【診 療・部署実績】

各科の診療実績を参照

◆総合診療内科

【部署概要】

内科は臓器別診療科に細分化される方向にあるが、特に初診の患者に対しては幅広い視野で診察に当たることが必要である。内科疾患は多岐に渡るが種々の訴えで来院される患者に幅広く対応し、鑑別診断を行い、的確な治療を行っていきたいと考えている。

具体的には、本院では消化器内科、循環器内科、脳神経内科、糖尿病内科などの専門診療科があるので、総合診療内科では、主としてそれ以外の内科疾患、未だ診断のついていない疾患、臓器を特定できない疾患を取り扱っている。入院診療においては、肺炎などの種々の感染症、不明熱、内分泌代謝疾患、専門診療を必要としない心疾患や呼吸器疾患を扱っている。

【診療・部署体制】

【スタッフ】

高宮	みさき	感染症内科部長
赤峰	瑛介	消化器内科副部長
新田	洋介	内科副部長
大舘	秀太	消化器内科医員
杉岡	和哉	循環器内科医員
濱	典男	非常勤
並川	浩己	非常勤
西垣	圭祐	非常勤

【特色・トピックス】

当院の総合診療内科は消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、感染症内科の各科が協力して入院および外来診療を行う体制になっている。各科の医師は高度の専門性を保ちつつ、内科全般を診療していることが総合診療内科の特色である。

◆循環器内科

【部署概要】

当院では下記の疾患群に特に力を入れて診療している。

1. 胸痛を主訴とした狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患
2. 下肢の疼痛や間欠性跛行の原因となる閉塞性動脈硬化症
3. 息切れを主訴とするような慢性心不全、心臓弁膜症
4. 動悸・失神などの原因となる不整脈
5. 動脈硬化を促進する高血圧、脂質異常症、糖尿病

入院では心臓カテーテル検査、冠動脈形成術、下肢動脈血管形成術、恒久ペースメーカー植え込み術、アブレーションなどを中心とした侵襲的治療から、最近高齢化に伴い急速に増加してきた慢性心不全の治療にも積極的に取り組んでいる。また、検査では冠動脈CT、心エコー図や心臓シンチグラムを駆使して正確な診断に努めている。

【診療・部署体制】

緊急カテーテル検査はオンコール体制にて対応している。

増加する心不全に対して治療体制を整備している。

侵襲的な治療や検査は常に安全に留意している。

【スタッフ】

瓦林	孝彦	副院長／内科統括部長
----	----	------------

土井 淳史 部長
 岩村 世晴 部長
 高岡 奈央子 副部長
 田中 佐和 医長
 塚本 拓也 医局員
 杉岡 和哉 医局員

【特 色・トピックス】

土井部長により不整脈治療を積極的に取り入れた結果、不整脈患者数は増加した。2023 年度よりアブレーション治療件数は順調に増加している。特に心房細動は放置すると、脳梗塞や心不全のリスクとなることが知られるようになった為、開業医の先生方から多くの紹介を得ることができた。診断のためのホルター心電図検査数も増加した。また、今年度より岩村部長と高岡副部長を迎えカテーテル治療に関してもスタッフが増えたことにより、急性冠症候群や虚血性心疾患の対応がスムーズになった。その結果経皮的冠動脈形成術の件数は増加している。心不全患者の入院数は全体の 35%を超えており、そのため心エコー件数も増加している。不整脈、虚血、心不全の治療で社会貢献していきたい。

【診 療・部署実績】

入院患者数

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
循環器疾患患者退院数	330	403	371	372	385
心不全	142	154	172	153	138
慢性虚血性心疾患	88	99	50	52	72
急性冠症候群	33	77	46	46	59
閉塞性動脈硬化症	20	27	34	28	12
不整脈	—	—	39	77	82

循環器疾患の検査件数

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
冠動脈造影（緊急含む）	78	105	116	89	90
経皮的冠動脈形成術	42	57	28	33	61
緊急経皮的冠動脈形成術	31	56	34	42	53
下肢造影検査	22	40	41	38	13
経皮的下肢動脈形成術	22	37	33	33	9
ペースメーカー植込み（新規）	5	11	19	13	15
ペースメーカー電池交換	4	3	4	5	3
カテーテルアブレーション		10	2	44	54
心エコー検査数	3401	3694	3775	3962	4321
トレッドミル	44	24	16	20	17
ホルター心電図	172	188	151	210	236
冠動脈造影CT検査数	70	103	134	121	123
下肢動脈造影CT検査数	9	22	17	15	23

	月	火	水	木	金
AM	カテーテル検査 カテーテル治療 ペースメーカー	症例カンファレンス 心筋シンチ トレッドミル	カテーテル検査 カテーテル治療	症例カンファレンス	カテーテル検査 カテーテル治療

PM	ペースメーカー	CPAP 外来 ペースメーカー外来 カンファレンス 抄読会	カテーテル検査 カテーテル治療		カテーテル検査 カテーテル治療
----	---------	--	--------------------	--	--------------------

◆消化器内科

【部署概要】

当院の消化器内科は、内視鏡センター、消化器センターに所属し、指導医・専門医・認定医資格を持つスタッフ医師と後期研修医（レジデント）で構成されており、消化器疾患（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵）を緊急例から慢性疾患・癌治療まで幅広く診療しております。内視鏡検査・治療は、スクリーニング検査から高度な専門治療まで年間 11,000 件以上行っています。

【診療・部署体制】

消化管：2024 年度は上部消化管内視鏡検査を約 7000 件、下部消化管内視鏡検査を約 3000 件行っています。2023 年度より始めた胃食道逆流症患者に対する内視鏡治療である逆流防止粘膜切除術（ARMS）を行っている全国でも数少ない病院である為、近畿圏以外からも患者が来ています。消化管早期癌（食道・胃・十二指腸・大腸）に対する拡大 NBI 内視鏡診断・ESD を大きな偶発症なく安全に行っています。また潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する治療を生物的製剤、分子標的治療薬、CAP 療法などの専門的治療も含め行っております。小腸内視鏡（カプセル内視鏡およびバルーン内視鏡）も行っており、全消化管を精密検査できる環境が整っています。

肝：一般的な肝疾患診療に加え超音波用造影剤（ソナゾイド）を用いた造影エコーによる肝臓癌の精査も施行しております。ウイルス性慢性肝炎に対する抗ウイルス療法をはじめ、肝臓癌に対するラジオ波焼灼術（RFA）や肝動脈化学塞栓術（TACE）を行っております。また肝硬変患者に生じる食道胃静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤結紮術/硬化療法（EVL/EIS）、胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術（BRTO）や、腹水患者に対する腹水濾過濃縮還元療法（CART）、腹腔-静脈シャント（Denver シャント）も行っています。

胆膵：2024 年度は総胆管結石・慢性膵炎・胆管癌・膵癌などに対する ERCP を年間 520 件行っています。同疾患や膵嚢胞性病変に対するコンベックス型超音波内視鏡（EUS）による観察や EUS-TA（EUS ガイド下穿刺吸引細胞診-組織診）や EUS-BD（EUS ガイド下胆道ドレナージ）等の先進的な医療も行っております。また SpyGlass というディスプレイ細径胆道鏡を用い、今まで内視鏡的に除去することが困難であった巨大結石や破碎困難な硬い結石なども SpyGlass と EHL（電気水圧衝撃波結石破碎術）を用いて除去できるようになりました。SpyGlass は胆管癌・膵癌・原因不明の胆膵管狭窄の診断にも有用です。

消化器内視鏡：2024 年度は約 11,500 件の消化器内視鏡検査・治療を行いました。平素より通常のスクリーニング検査をはじめ、上記の通り内視鏡治療として食道・胃・大腸の早期癌に対する ESD、GERD に対する ARMS、食道胃静脈瘤に対する EVL・EIS、胆膵疾患に対する ERCP・EUS・EUS-FNA・EUS-BD・SpyGlass、消化管・胆管メタリックステント留置術などの専門的かつ高度な治療を幅広く行っております。

緊急体制：24 時間 365 日、緊急内視鏡ホットラインで救急隊や近隣の病院・医院と直接連携しており、消化管出血や消化管異物、S 状結腸軸捻転、急性胆管炎などの緊急内視鏡を要するような

疾患に数多く対応しております。急性期病院であり「断らない救急」をモットーにしている当院の性格上、吐血/腹痛を主訴とした消化管出血/急性腹症などの緊急疾患が救急車で多く運ばれてきます。特に消化管出血の救急搬送は大阪市内 No.1 です。緊急腹部疾患に対して、当院の特長である科同士の連携の良さを活かし、消化器内科/消化器外科/急性腹症科が連携してチーム医療を行い、緊急処置/内視鏡治療/手術などを行っています。

【特 色・トピックス】

多数の専門外来（低侵襲がん内視鏡治療外来、胆膵内視鏡外来、潰瘍性大腸炎外来、レディース内視鏡外来、胃食道逆流症外来）を開設しており、幅広い患者様に高度に専門化した診療を提供しております。

苦痛のない内視鏡検査を目指しており、上部は嘔吐反射の少ない経鼻内視鏡による胃カメラや鎮静剤と鎮痛剤を併用した検査を行っています。大腸も鎮静剤と鎮痛剤の併用、UPD、さらに「浸水法」と高い内視鏡操作技術による無痛の大腸内視鏡検査を提供しています。

消化管早期癌に力を入れており、NBI や色素を併用した拡大内視鏡検査や超音波内視鏡(EUS)を用いた精度の高い診断から、食道・胃・大腸のみならず十二指腸の病変も含め高度な技術を要するESDによる内視鏡的早期癌切除を重篤な偶発症なく安全に行っております。

胃食道逆流症(GERD)に対する新しい内視鏡治療(ARMS)を2023年度より始めました。PPI/PCAB抵抗性あるいは依存性のGERD患者さんの弛んだ食道胃接合部を締める治療で逆流を改善させます。内視鏡治療であるため体表にメスを入れることなく低侵襲に治療ができます。

膵癌の早期発見に注力しており、2023年度からはTANE-Pプロジェクトと称し、大阪市西エリアの膵癌予後を向上すべく様々な取り組みを行っています。(市民や医療従事者・機関への啓蒙活動、膵癌ハイレスクチェックリストやポスターの配布など)

潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する治療を生物学的製剤、分子標的治療薬、CAP療法などの専門的治療も含め行っております。

胆膵疾患に対する検査・治療(ERCP関連手技)も得意分野であり、緊急胆管ドレナージ・総胆管結石除去・膵管内結石治療・胆管癌/膵癌に対する精査および減黄治療を中心に行っております。SpyGlassと呼ばれるわずか径3mmのディスポーザブル胆道鏡も導入しているため、通常内視鏡的に除去することが困難な胆管結石もSpyGlass+EHL(電気水圧衝撃波)を用いて治療できるようになっております。胆管癌や膵癌の早期発見や精密診断の目的にコンベックスEUSを用いた観察やEUS-FNA(超音波内視鏡ガイド下-穿刺細胞診・組織診)も行っており、またinterventional EUSとしてEUS-BD(超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ：消化管-胆道瘻孔形成術)も行っております。

上下部内視鏡検査でも出血源を同定できない消化管出血やクローン病などに対する小腸カプセル内視鏡や小腸バルーン内視鏡検査・治療も行っております。また同内視鏡は消化器手術後の特異な解剖(Roux en-Y法再建、Bilroth-II法再建、膵頭十二指腸切除後)を有する患者様に対する従来困難であったERCPを可能にし、以前は手術が必要であった患者様に低侵襲な治療を提供できております。

外来においては、初診時には可能な限りその日に診断できるよう心がけています。また待機の検査日程も患者様のご都合を最大限考慮し、短期間で診断までつけられるよう意識しております。治療については病状に対してだけでなく、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)を考慮し治療方法を決定しております。

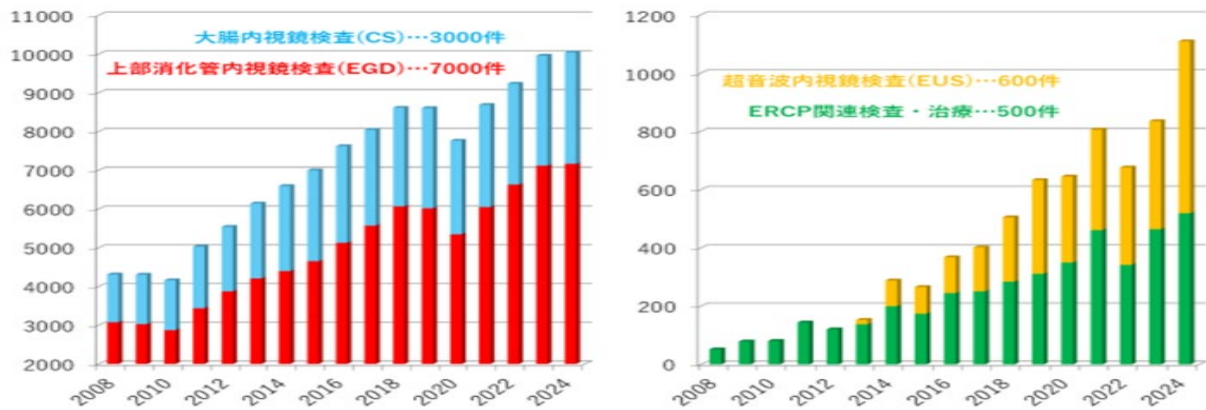
消化器内科・外科合同カンファレンスや合同回診など、消化器外科との連携が良いことも大きな特徴の一つであり、診断から治療まで常に最善の医療を最善のタイミングで患者様に提供できるよう多角的に診療を行っています。

＜次年度方針・将来展望・目的・目標＞

当院は以前より上下部消化管内視鏡検査において患者様の苦痛を最小限にするべく努力をして参りました。一方で消化管癌に対するESDや、胆膵領域における超音波内視鏡や胆道鏡(SpyGlass)

を用いた高度な検査・治療にも力を入れてきました。2022 年度は癌研有明病院へ国内留学し消化管癌診療を学んだ医師が消化器内科チームへ戻り、2023 年度からは国立がんセンター中央病院へ国内留学していた胆膵を専門とする医師も戻り、さらに 2025 年度からは国立がんセンター東病院と NTT 東日本関東東病院で研鑽を積んだ消化管を専門とする医師が戻り、消化器内科の診療能力はより一層強化されました。従来から力を入れている ESD や ERCP、EUS に加え、膵癌の早期発見、ARMS、IBD に力を入れてまいります。今後も、消化器外科・消化器内科・放射線科・腫瘍内科・緩和ケア科が協力しながら、低侵襲・高 QOL な治療をベストのタイミングで患者様に提供し続けます。

【診療・部署実績】



◆脳神経内科

【部署概要】

脳卒中、てんかん、髄膜脳炎などの神経救急疾患を中心に、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの慢性疾患を含めて神経疾患全般にわたって診療を行っている。特に脳卒中症例は、24 時間 365 日体制で脳神経外科と共同で神経・脳卒中センターを運営しており、脳神経内科は主に虚血性脳卒中(脳梗塞、一過性脳虚血発作)の入院診療を担当している。リハビリテーション科・看護師や MSW などのコメディカル・多根脳神経リハビリテーション病院・多根第二病院と連携し、急性期だけでなく回復期リハビリテーションや慢性期まで含めた診療を行っている。一般外来は、完全予約制で、月曜日から金曜日まで行っており、他病院からの紹介や他科からの診察依頼に対しては適宜対応している。

【診療・部署体制】

【スタッフ一覧】

学術顧問：柳原 武彦
 脳神経内科部長：白石 翔一
 脳神経内科部長：吉田 智子
 脳神経内科副部長：田中 なつき
 脳神経内科医長：北村 絵未
 脳神経内科医長：江並 朋美
 脳神経内科医長：小玉 大地
 脳神経内科医員：國方 桃代
 脳神経内科医員：仲辻 有佑

【特 色・トピックス】

当科の入院症例は、脳血管障害、てんかん、片頭痛、めまいなどの機能性疾患、髄膜炎・脳炎などの感染性疾患といった神経救急疾患が大半を占めている。その中で、脳卒中診療は超急性期から回復期までの診療に携わっている。発症直後の急性期血行再建療法は積極的に行っており、rt-PA 静注療法や血管内治療も多数行っている。状態が安定した後も、回復期リハビリテーションの適応がある症例は大多数が多根脳神経リハビリテーション病院で、療養型病院の適応がある症例は一部が多根第二病院で対応できる為、脳卒中診療の全ての経過を網羅することができる。

【診 療・部署実績】

外来患者延数…5,393 人

入院患者延数…11,544 人

◆外 科

【部署概要】

一般外来は、午前診 9:00～11:30（月曜日から金曜日）、午後診 13:00～15:00（月曜日、水曜日）で、日帰り手術センター外来（月曜日から金曜日）も行なっている。

手術日は月～金曜日毎日であるが、救急病院であるため昼夜を問わず緊急手術に対応している。また疾患別にグループを作り、幅広い知識の習得と最新の治療に対応している。

【診 療・部署体制】

上部消化管（森）

下部消化管（小川淳宏、小川稔、金、久戸瀬）

肝胆膵（細田）

乳腺、内分泌（西）

日帰り手術（丹羽、上村、土屋）

【特 色・トピックス】

2024 年度の異動は 3 月に小澤慎太郎が転出し、4 月に金浩敏外科部長、土屋康紀日帰り手術センター副センター長が着任した。また、廣部雅臣が専攻医として加わった。本年度も消化器外科手術件数は 1186 件と大阪大学消化器外科関連施設 43 施設のなかで 2 番目に手術症例数の多い施設となった。なかでも鏡視下手術の件数が年間 602 件と非常に多いのも特長である。

急性腹症患者については他施設にない急性腹症科を設置して、経験豊富なスタッフが 365 日 24 時間体制で緊急手術を行っている。救急隊との間に急性腹症ホットラインを設け、大阪市全域より急性腹症患者の受け入れを行っている。鏡視下手術に熟練したスタッフが多く、夜間の緊急でも積極的に鏡視下手術を行っている。

大阪府がん診療拠点病院として、悪性腫瘍の手術も多数行っている。胃癌、大腸癌については腹腔鏡下手術を積極的にとりいれている。さらに大腸癌では前年より開始したロボット支援下手術が 48 件と増加し、金部長、久戸瀬医長がロボット支援下大腸切除術のプロクター資格を取得した。また、10 月には森部長、加藤医師にて胃癌のロボット支援下手術も開始した。

日帰り手術については「日帰り手術センター」の頁を参照していただきたい。

また、手術だけでなく、教育、研究にも力を入れており、1 年を通して多数の初期研修医、後期研修医が当科で研修を行っている。また、学会発表、論文執筆もスタッフ、後期研修医から初期研修医に至るまで多数行っている。

民間病院としては希な多数かつ専門性の高いスタッフが揃っており、今後も大阪市西部ブロックの基幹病院として、より多くの症例を受け入れていきたい。

【診 療・部署実績】

分類	項目	症例数
A	消化器外科手術症例数	1186
A-1	そのうち全身麻酔による手術症例数	1075
A-2	そのうち全身麻酔以外による手術症例数	111
A-LAP	腹腔鏡（胸腔鏡）手術症例数（分類 A のうち、原疾患を問わず）	602
B	食道	6
B-1	食道癌（接合部癌扁平上皮癌含む）	3
B-1-2	胸部食道切除	2
B-1-2-OPN	開胸	1
B-1-2-LAP	胸腔鏡	1
B-1-3	その他	1
B-5	食道その他	3
C	胃・十二指腸（※十二指腸乳頭部癌は胆道癌へ）	69
C-1	胃癌	52
C-1-1	胃全摘	14
C-1-1-OPN	開腹	8
C-1-1-LAP	腹腔鏡	6
C-1-2	幽門側胃切除（PPG、分節切除含む）	32
C-1-2-OPN	開腹	16
C-1-2-LAP	腹腔鏡	13
C-1-2-ROBOT	ロボット	3
C-1-3	噴門側胃切除	4
C-1-3-OPN	開腹	2
C-1-3-LAP	腹腔鏡	2
C-1-4	その他胃切除（局所切除/楔状切除など）	1
C-1-4-OPN	開腹	1
C-1-5	その他胃癌手術（バイパス／審査腹腔鏡など、開腹／腹腔鏡を問わず）	1
C-3	胃・十二指腸 GIST（開腹／腹腔鏡を問わず）	7
C-5	胃・十二指腸その他（潰瘍／病的肥満／胃瘻など、開腹／腹腔鏡を問わず）	10
D	小腸・大腸・肛門	428
D-1	結腸癌	75
D-1-1	切除術	67
D-1-1-OPN	開腹	9
D-1-1-LAP	腹腔鏡（RPS を除く）	51
D-1-1-ROBOT	ロボット	7
D-1-2	非切除（人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど）	8

D-2	直腸癌（肛門癌含む）	61
D-2-1	切除術（肛門温存）	45
D-2-1-LAP	腹腔鏡（RPS を除く）	4
D-2-1-ROBOT	ロボット	41
D-2-3	局所切除（経肛門切除、TEM）	1
D-2-4	非切除（人工肛門造設・閉鎖、バイパスなど）	15
D-6	小腸 GIST（開腹／腹腔鏡を問わず）	2
D-7	小腸粘膜下腫瘍（GIST 以外、開腹／腹腔鏡を問わず）	1
D-8	虫垂炎（開腹／腹腔鏡を問わず）	142
D-8-OPN	開腹	2
D-8-LAP	腹腔鏡（単孔式、RPS を含む）	140
D-9	イレウス（開腹／腹腔鏡を問わず）	57
D-12	痔核	50
D-13	痔瘻	1
D-14	結腸その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	22
D-15	直腸その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	10
D-16	肛門その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	5
D-17	小腸その他（開腹／腹腔鏡を問わず）	2
E	肝・胆・膵	249
E-1	肝細胞癌	2
E-1-3	肝区域切除	2
E-1-3-OPN	開腹	2
E-3	転移性肝癌	9
E-3-3	肝区域切除	3
E-3-3-OPN	開腹	3
E-3-5	肝部分切除	6
E-3-5-OPN	開腹	4
E-3-5-LAP	腹腔鏡	2
E-4	胆嚢癌	2
E-4-5	肝部分切除（拡大胆摘を含む）	1
E-4-5-OPN	開腹	1
E-4-7	胆摘	1
E-4-7-LAP	腹腔鏡	1
E-6	遠位胆管癌（中下部胆管癌）	2
E-6-1	膵頭十二指腸切除	2
E-6-1-OPN	開腹	2
E-7	十二指腸乳頭部癌	1
E-7-1	膵頭十二指腸切除	1

E-7-1-OPN	開腹	1
E-8	膵管癌	10
E-8-1	膵頭十二指腸切除	6
E-8-1-OPN	開腹	6
E-8-2	尾側膵切除	4
E-8-2-OPN	開腹	3
E-8-2-LAP	腹腔鏡	1
E-9	膵神経内分泌腫瘍	2
E-9-2	尾側膵切除	1
E-9-2-LAP	腹腔鏡	1
E-9-3	その他切除術	1
E-9-3-LAP	腹腔鏡	1
E-10	膵 IPMN	4
E-10-1	膵頭十二指腸切除	1
E-10-1-OPN	開腹	1
E-10-2	尾側膵切除	2
E-10-2-OPN	開腹	2
E-10-3	その他切除術	1
E-10-3-OPN	開腹	1
E-11	胆石症・胆嚢炎・胆嚢ポリープなど	210
E-11-OPN	開腹胆石症手術	5
E-11-LAP	腹腔鏡下胆石症手術（単孔式、RPS を含む）	205
E-13	総胆管結石症	1
E-13-LAP	腹腔鏡	1
E-14	肝胆膵その他	6
E-14-OPN	開腹	1
E-14-LAP	腹腔鏡	5
E-SEG	肝区域切除（原疾患を問わず）	6
E-PD	膵頭十二指腸切除（原疾患を問わず）	11
E-DP	尾側膵切除（原疾患を問わず）	11
G	ヘルニア（鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど）	319
G-OPN	開腹ヘルニア根治術	312
G-LAP	腹腔鏡下ヘルニア根治術	7
H	腹膜炎・その他	113
X	他科手術	2

◆緩和医療科

【部署概要】

緩和医療科は悪性疾患による身体的・精神的な苦痛を和らげ、患者と家族の生活の質(QOL)を向上させることを目標とし、治療の初期段階からさまざまなケアをチームで提供します。

1) 専門外来 2) 一般病棟(がんサポートチーム:緩和ケアチーム) 3) 緩和ケア病棟で診療に当たります。

さらに、在宅医と連携することで切れ目のない緩和ケアを提供します。

【診療・部署体制】

1) 外来:緩和ケア病棟面談(月曜日:午後、火曜日:午前、木曜日:午前・午後)、再診ならびに院内初診(月曜日:午前、金曜日:午前・午後) 入院患者は随時対応します。

2) 一般病棟:がんサポートチーム(緩和ケアチーム)

身体症状担当:石丸、和田

精神症状担当:柄池

看護師:2名、薬剤師:3名

3) 緩和ケア病棟:20床

【特色・トピックス】

緩和医療科は石丸、和田と精神科柄池医師とともに一般病棟および緩和ケア病棟の患者に対応しています。

和田は放射線治療専門医でもあり、2024年8月から放射線治療科と連携して「放射線治療ホットライン」を立ち上げ、緩和的放射線照射が必要な患者を積極的に受け入れています。

また、大阪府がん診療拠点病院として、年1回「緩和ケア研修会(PEACEプロジェクト)」を開催して医療従事者への教育・普及に力を注いでいます。

緩和ケア病棟を持つ急性期病院が地域において果たすべき役割を院内で共有し、救急科・外科・消化器内科をはじめとする院内各診療科と協力体制を構築しています。これにより、がん進行期・終末期の患者に対し、地域の「セーフティネット」として切れ目のない緩和ケアを提供しています。

【診療・部署実績】

緩和的放射線件数(2024年4月~2025年3月)

全症例	125例
緩和医療科からの依頼件数	76例
ホットライン症例	24例

(同時期の複数照射は1症例とした)

2024年度 緩和ケア病棟 診療実績

	延べ患者数	実入院患者	新入院数	退院数	平均在院日数	稼働率
4月	549	44	19	28	25.2	96.2%
5月	464	44	15	31	22.8	79.8%
6月	435	37	17	25	21.5	76.7%
7月	472	45	22	35	18.9	81.8%
8月	508	39	24	27	18.9	86.3%
9月	449	44	19	32	18.0	80.2%
10月	444	43	25	30	17.8	76.5%
11月	517	37	22	20	19.1	89.5%
12月	503	46	22	39	18.5	87.4%
1月	481	43	26	33	18.5	82.9%
2月	438	40	23	27	16.7	83.0%
3月	440	45	22	38	16.1	77.1%

◆整形外科

【部署概要】

整形外科では骨折や靱帯損傷など一般的な外傷、スポーツ愛好家からハイレベルアスリートまで幅広いスポーツ障害、年齢を重ねるごとに痛みが出てくる腰や関節の変性疾患、骨粗鬆症等に対して治療を行っています。

【診療・部署体制】

〈 外 来 〉

2024年度は1ヶ月平均966名、1日平均47.7名でありました。

受付時間は午前10時までとなっております。書類記入補助などの業務も加わって、外来の待ち時間が比較的短くなりました。

〈 入 院 〉

2024年度は1日平均26.8名であり、平均在院日数は13.7日でありました。

予定入院の増加や、MSWの協力により比較的短期の入院が多くなってきています。現状を継続したいと思います。

〈 手 術 〉

2024年度は674件の手術件数があり、1ヶ月平均56.2件となりました。手術内容としては下記の通りの内訳となります。治療内容としてはあらゆる外傷に加え、スポーツや関節鏡手術が増えたものになっています。今後も学会・研究会等の発表、投稿に加え十分な知識・経験に基づく医療を発展させたいと考えています。

【特色・トピックス】

専門外来として肩関節・肘関節の障害、肩・肘スポーツ障害を診療する『肩・肘・スポーツ外来』と、スポーツに関わる障害を体幹・下肢も含めて診療する『スポーツ外来』『人工関節(股・膝)外来』を行っています。

【診療・部署実績】

2024 年手術実績

手術総数	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	その他
633	35	48	26	435	0	74	12	2	1

◆脳神経外科

【部署概要】

脳神経外科疾患には脳血管障害（脳卒中）、脳腫瘍、頭部外傷（神経外傷）、脊髄疾患、機能性疾患（顔面痙攣、三叉神経痛など）、小児脳神経外科疾患があるが、当科はほぼ全ての領域を網羅し診療を行っている。小児脳神経外科に対しては大阪医科薬科大学と連携し外来診療を行っている。

なかでも神経系救急疾患の多くを占める脳卒中において出血性血管障害は脳神経外科が、閉塞性血管障害は脳神経内科が主に診療を行っており、常時両科で情報を共有しつつ手術適応症例に対しては 24 時間体制で速やかに脳神経外科で対応している。

【診療・部署体制】

常勤専門医 6 名、非常勤専門医 4 名の専門医合計 10 名で診療に携わっている。

救急搬入患者は原則救急診療科に初期診療を担って頂き、神経系疾患においては直ちに神経センターへ連携され、脳神経内科と協力し 365 日 24 時間体制での神経疾患患者の受け入れを実現している。また脳卒中ホットラインによる救急隊からの直接連絡受け入れ体制も敷いており、診断治療までの可能な限りの時間短縮を目指している。

外来診療は平日毎日行い、午前は月・火・木曜日を 2 診制、水・金曜日を 1 診制、午後は月・木曜日を 2 診制、他は 1 診制で行っている。原則予約患者を優先的に診療し、予約外患者も随時受け入れ診療を行っている。

入院診療は一人主治医制で行っているが、カンファレンスや全体回診にて各医員は全患者の状態把握に努め、治療方針や手術適応に関しては十分なカンファレンスのもとに決定している。

手術は月・木曜日の手術室枠を中心に予定手術を行っているが、緊急手術に対しては麻酔科、手術室および他診療科の協力のもと 24 時間体制で随時行っている。

【特色・トピックス】

A) 脳血管障害手術について

- 1) 脳卒中センターを開設し、緊急手術を含めた 24 時間体制を敷いている。
- 2) 患者安全を最優先し、病態に応じ開頭術などの外科的直達術、脳血管内手術、神経内視鏡手術などの選択が可能。
- 3) 術中ナビゲーションシステム、MEP、SEP、ABR などの神経モニタリング、ICG 蛍光診断、低体温麻酔など脳保護において各種術中支援を活用している。

B) 脳血管内治療について

- 1) 大阪医科薬科大学脳神経外科・脳血管内治療科と連携し、応援医、指導医を招聘し手術を行う事で安全性を高めている。
- 2) 頸動脈病変では、安全性を最優先し病態に応じ頸動脈内膜剥離術（CEA）、頸動脈ステント留置術（CAS）の選択が可能。

3) 脳血管内治療後に開頭術が必要となった場合においても 24 時間対応が可能。

C) 脳腫瘍手術について

- 1) 臨床工学科と連携し画像支援としてナビゲーションシステム (BRAINLAB Elements®)、神経モニタリング (MEP、SEP、VEP、EMG、ABR、AMR など)、蛍光診断 (5-ALA、fluorecein、ICG) などを駆使し、安全性の高い脳腫瘍手術を提供している。当院では画像支援装置、手術顕微鏡、手術室マルチ・モニター、高精度放射線治療システム等がネットワークで統合されており、術前の手術計画作成から実際の顕微鏡および内視鏡手術、術後の放射線治療計画、放射線照射までがひとつに統合された治療がシステム上で行われ、症例毎に機能温存と根治性を両立させたテイラーメイド治療が可能となっている。
- 2) 脳腫瘍に対する針生検や、深部脳膿瘍に対する排膿術など定位的手法を要する手術に対しては、BRAINLAB VarioGuide™を用いた高精度の定位手術が可能である。
- 3) 下垂体腺腫などのトルコ鞍部腫瘍および経鼻アプローチが可能な下垂体近傍の頭蓋底手術に対しては、2005 年から顕微鏡に内視鏡を併用した手術を開始し、2008 年からは顕微鏡を用いない完全内視鏡手術に移行した。現在は手術及び周術期の管理も含めて耳鼻咽喉科と協同し、硬性内視鏡による経鼻的内視鏡下経蝶形骨洞手術 (endoscopic endonasal TSS : eTSS) を行っている。
- 4) 術後は疾患に応じた適切な後療法 (放射線化学療法) の選択が可能である。化学療法においては脳悪性リンパ腫など全身アプローチを要する疾患の場合は腫瘍内科と連携して行い、照射治療においては放射線治療科と連携し高精度放射線治療装置 (BRAINLAB 社、Novalis Tx) を用いた定位放射線療法 (SRS、SRT)、強度変調放射線治療 (IMRT)、画像誘導放射線治療 (IGRT) など、最新の放射線照射治療を提供している。

D) 頭部外傷手術について

頭部外傷全般に対応し、特に頭蓋内圧亢進を来す重症頭部外傷例においては外減圧処置のうえ脳圧計 (ICP sensor) を留置し、厳密に脳圧コントロールを行って術後管理をしている。
近年穿頭を要する超緊急症例に対しては、救急外来外傷センターでの穿頭術対応も行っている。

【診療・部署実績】

2024 年度診療実績（脳神経外科）

総外来患者数・・・6,765 人／年度 年間入院患者数・・・9,591 人／年度

2024 年 脳神経外科 全手術件数内訳（2024. 1. 1-2024. 12. 31）

脳神経外科的手術症例数（2024年1～12月）		
脳神経外科的手術の総数		270
脳腫瘍	摘出術	13
	生検術（開頭術）	1
	生検術（定位手術）	2
	経蝶形骨洞手術	1
	広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	3
	その他	0
脳血管障害	破裂動脈瘤	9
	未破裂動脈瘤	1
	脳動静脈奇形	1
	頸動脈内膜剥離術	2
	バイパス手術	1
	高血圧性脳内出血（開頭血腫除去術）	8
	高血圧性脳内出血（定位手術）	0
	その他	7
外傷	急性硬膜外血腫	1
	急性硬膜下血腫	5
	減圧開頭術	1
	慢性硬膜下血腫	61
	その他	3
奇形	頭蓋・脳	0
	脊髄・脊椎	0
	その他	0
水頭症	脳室シャント術	13
	内視鏡手術	0
	その他	8
脊椎・脊髄	腫瘍	1
	動静脈奇形	0
	変性疾患（変形性脊椎症）	26
	変性疾患（椎間板ヘルニア）	9
	変性疾患（後縦靱帯骨化症）	3
	脊髄空洞症	0
	その他	3
機能的手術	てんかん	0
	不随意運動・頑痛症（刺激術）	0
	不随意運動・頑痛症（破壊術）	0
	脳神経減圧術	8
	その他	0
血管内手術	動脈瘤塞栓術（破裂動脈瘤）	7
	動脈瘤塞栓術（未破裂動脈瘤）	7
	動静脈奇形（脳）	4
	動静脈奇形（脊髄）	0
	閉塞性脳血管障害の総数	47
	（上記のうちステント使用例）	7
	その他	2
その他	上記の分類すべてに当てはまらない症例	12

◆小児科

【部署概要】

新生児から中学生までの一般小児疾患を対象としています。発熱、感染症などの急性疾患から、気管支喘息、食物アレルギーなどアレルギー疾患、起立性調節障害、夜尿、便秘、低身長など慢性疾患、育児相談、予防接種、乳幼児検診などを診療しています。入院診療は行っていないが、小児の急性期・慢性期疾患に幅広く対応しています。小学生以上の児においては、外来で成長ホルモンの負荷試験を行っています。入院や、専門医の診療が必要な症例に関しては、地域医療連携室を通じて、専門の医療機関に紹介いたします。

【診療・部署体制】

常勤の小児科医 1 名体制で、基本的には月～水曜日・金曜日の午前・午後(水曜午後は完全予約制の予防接種外来のみ)、常勤医が対応しています。

【特色・トピックス】

総合病院の小児科として、院内各科と連携して、診療に当たっております。眼科病院の術前検査や、他科の乳幼児の血液検査などは、当科で処置を行なっています。
大阪市予防接種委託施設であり、定期接種及び、任意接種を行なっています。2022 年度からは BCG 接種も行っています。また、成人の麻疹・風疹などの抗体検査、及び肺炎球菌ワクチン以外の成人の予防接種も受け付けています。
大阪市の感染症動向調査小児科定点医療機関として、毎週、症例数を報告しています。
病院委託になっている 1 歳児健診(10 カ月健診)も行っています(要予約)。

【診療・部署実績】

外来患者数(延べ)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	新来	12	20	21	39	39	17	32	19	33	25	19	22	298
	再来	26	26	20	32	34	27	34	25	30	29	24	25	332
	合計	38	46	41	71	73	44	66	44	63	54	43	47	630

主な予防接種実績(延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
五種混合	0	0	1	1	0	0	1	1	2	1	1	0	8
四種混合	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	5
二種混合	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	4
ピフ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
肺炎球菌	0	1	1	3	1	0	1	1	2	2	1	0	13
乾燥弱毒生麻疹風疹混合	1	0	1	0	2	2	1	0	0	0	0	0	7
日本脳炎	0	3	3	0	3	2	3	1	1	0	0	0	16
乾燥弱毒性おたふくかぜ	0	0	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	6
乾燥弱毒生水痘	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	7
ポリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B型肝炎	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ロタ	0	0	1	1	0	0	1	1	2	1	0	0	7
成長ホルモン	2	2	2	3	2	2	1	1	1	2	0	2	20
合計	5	8	11	10	11	11	10	5	6	8	1	2	88

◆泌尿器科

【部署概要】

スタッフは細川幸成、伊丹祥隆、飯田孝太、朝田一輝および12月までは市居大季、1月から林百合子が異動となり、5名の常勤医、全日手術日の月曜日は平尾佳彦の非常勤医で構成している。

【診療・部署体制】

外来診療の月曜日は2診体制、火曜日から金曜日の午前診は3診体制で、午後診は月・火・水・木・金曜日は3診体制で行っている。

手術日は月曜日の全日、木曜日の午後、金曜日の午前に行っている。

体外衝撃波結石破碎術（以下、ESWL）は火、水および木曜日に全日で行っている。

【特色・トピックス】

救急病院である性格上、早急な対応が迫られることが少なくない。そのため、診断から治療までが早いことが当院の特徴である。

また、日本泌尿器科学会 専門医教育施設であり、奈良県立医科大学泌尿器科学教室の専門医取得までの後期研修および、専門医がさらに指導医を取得するまでの教育拠点施設としての役割を担っている。

【診療・部署実績】

本年度の外来患者数は13,473名（昨年13,570名）、新患は898名（昨年879名）および紹介患者344名（昨年300名）であった。

本年度の入院患者数は878名（昨年812名）、平均在院日数は7.2日（昨年7.5日）であった。

体外衝撃波結石破碎術（以下、ESWL）は新規患者47名（昨年65名）であった。

論文は4編（内筆頭著者4件）であった。

◆皮膚科

【部署概要】

一般外来は平日の午前・午後で行っている。

他科入院中の患者を対象とした病棟対診

手術は局所麻酔でも行える小手術を行っている。

入院加療については、全身状態が安定していて早期退院が見込める症例を対象に担当させて頂いている。

【診療・部署体制】

部長：中井大介

その他非常勤医師（火曜午前、金曜午前）

【特色・トピックス】

当科では皮膚科一般疾患を幅広く扱っています。

「皮膚は内臓の鏡」とも言われ、皮膚の状態から糖尿病を始めとした内科疾患が見つかることもまれではありません。

お肌にできたものは何でもご相談ください。

皮膚科全般（アレルギー疾患・皮膚感染症・熱傷・皮膚腫瘍など）に対応しています。

症状のみでは診断が困難な症例に対しては、皮膚生検を施行し、次の治療を進めています。

生物学的製剤承認施設であり、乾癬、化膿性汗腺炎、掌蹠膿疱症などに対する注射治療にも対応しております。

【診療・部署実績】

年間外来延べ患者数:6,535名 初診患者数:1,129名 紹介患者数:244名
入院実人数:44名 平均在院日数:7.2日
皮膚生検:142件
手術(皮膚腫瘍切除術:62件 皮膚悪性腫瘍切除術:12件 皮膚切開術:85件)

◆婦人科

【部署概要】

主に婦人科良性疾患を中心に幅広い疾患に対応しています。外来診療では子宮がん検診をはじめとする一般婦人科検診、月経異常や月経困難症、性感染症、更年期障害、子宮脱(骨盤臓器脱疾患)などを中心に診療を行っています。入院による手術治療も行っており、手術対象は子宮筋腫や良性卵巣腫瘍(卵巣のう腫)、骨盤臓器脱といった良性疾患を中心に手術を実施しています。

【診療・部署体制】

常勤の婦人科医(女性医師)(部長:塚原稚香子、非常勤:中川美生)2名体制で診療を行っています。一般外来は月曜～金曜の午前・午後(火曜日午後を除く)、専門外来は月・水・金曜の午後に出ています。専門外来の内訳として月曜午後:ウロギネ外来、水曜午後:思春期外来、木曜午後:HPVワクチン外来、金曜午後:更年期外来を行っています。一般外来でも全ての疾患に対応可能ですが、専門外来を設置することで患者様に更に受診しやすい環境を提供しております。また手術は主に火曜日・木曜日を中心に行っています。腔式手術、開腹手術、腹腔鏡下手術、子宮鏡手術など多くの術式が対応可能です。

【特色・トピックス】

2024年3月までは外来診察のみの診療体制でしたが、2024年4月より外来診察の枠を広げ、手術治療も可能な診療科となりました。外来は一般外来の拡大のみならず専門外来を設置しております。更年期外来では、一般総合病院ではあまり受けることができないプラセンタ治療(保険適応)も行っております。手術は多くの術式による手術が可能であり、腹腔鏡下手術は婦人科内視鏡技術認定医が手術を行います。また、大阪市内の総合病院ウロギネセンターにて骨盤臓器脱の手術を牽引してきた医師による骨盤臓器脱手術(子宮脱など)を受けることが可能です。骨盤臓器脱疾患は数多くの術式がありますが、当院では全ての術式が対応可能であり、患者様一人一人の症状や生活環境に合わせた治療内容を提供することが可能となっています。

【診療・部署実績】

2024年度の外来患者数は1,717名(昨年度994名)。そのうち新患は291名(昨年度176名)、紹介患者は99名(昨年度46名)でした。手術件数は55件、入院患者数は397名。

◆耳鼻咽喉科

【部署概要】

当院耳鼻咽喉科で行っている診療に以下のようなものがあります。

1. 上気道炎、めまい、感音難聴、顔面神経麻痺、鼻出血など、耳鼻咽喉科急性疾患に対する幅広い治療。
2. 保存的治療に抵抗する副鼻腔炎、真菌性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎に対する手術治療。
3. 薬物治療に抵抗するアレルギー性鼻炎、鼻中隔彎曲矯正に対する手術治療。
3. 長期の薬物治療、生活指導が必要なメニエール病に対しての近年認可された中耳加圧療法を含めた治療

4. 良性発作性めまい症に対する臨床研究を含めた運動療法治療。
5. 難治性の滲出性中耳炎に対する鼓膜チューブ留置、アデノイド切除手術。
6. 嚥下障害に対して嚥下内視鏡検査による原因診断、また難治性の嚥下障害には誤嚥防止手術の喉頭全摘手術。
7. 声帯ポリープ、浮腫性声帯に対する手術治療。
8. 喉頭全摘出術後でボイスプロステシスによるシャント発声を希望されている方に対するボイスプロステシス留置術と術後管理。

【診 療・部署体制】

2024 年度前半は天津、大野、新たに加わった衣笠の 3 人体制、後半は前半のメンバーに平山を加えた 4 人体制で診療にあたりました。外来は毎日 2～3 人体制で行い、手術日などは大阪公立大学、大阪医科薬科大学からの非常勤医医師に応援を頂いています。

手術枠は水曜全日であり、1 日 1～3 件の手術を行っています。

上記部署概要に記したことを中心としながら、下垂体、傍鞍部病変に対する経鼻内視鏡手術では脳神経外科の先生方と、めまい疾患では脳神経内科の先生方と、咽喉頭疾患では消化器内科の先生方と、変形性外鼻と鼻中隔彎曲症を合併している症例では形成外科の先生方と連携して診療を行っています。これからもきっこう会の一員として、他科、関連施設と連携しながら皆様のお役に立てればと考えております。

【特 色・トピックス】

耳鼻咽喉科医は大阪公立大学耳鼻咽喉科医局員から構成されています。当院は日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の専門医教育施設で、大阪公立大学耳鼻咽喉科専門研修プログラムにおける連携施設でもあり、耳鼻咽喉科専門医取得までの研修施設でもあります。

日本気管食道科学会認定専門医研修施設、日本鼻科学会の鼻科手術認可研修施設でもあり、耳鼻咽喉科のサブスペシャリティの専門医資格の取得も可能です。

日本鼻科学会認定手術指導医制度認可施設として 1 年経ちましたが、本年度よりナビゲーションシステムを用いて、経鼻内視鏡手術のほぼ全例でこれを用いてより安全な手術を行っています。

【診 療・部署実績】

治療部位・施術	423
耳科手術	73
鼓室形成術	1
鼓膜チューブ挿入術	22
乳突削開術	1
鼓膜切開術	48
先天性耳瘻管摘出術	1
鼻科手術	256
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅱ～Ⅴ型	95
内視鏡下鼻中隔手術Ⅰ型（骨・軟骨手術）	54
鼻骨変形治癒骨折矯正術(形成外科合同)	4
内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型（下鼻甲介手術）	54
下鼻甲粘膜レーザー焼灼術	38

経上顎洞的顎動脈結紮術	2
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	2
経翼突管神経切断術 側で計算	4
鼻茸摘出術	2
経鼻的下垂体腫瘍摘出術（脳神経外科合同）	1
口腔咽喉頭手術	82
扁桃摘出術	62
アデノイド切除術（経鼻）	6
アデノイド切除術（経口）	2
喉頭微細手術	4
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（消化器内科合同）	1
扁桃周囲膿瘍切開術	7
頭頸部手術	12
耳下腺腫瘍摘出術	1
頬部膿瘍切開術	1
唾石摘出術	1
気管切開術	9

※両側性の臓器（例.鼻副鼻腔）の手術は側数で示しています。

◆形成外科

【部署概要】

形成外科は頭先从足先に至る外表面に現れる疾患はほぼ対象としており、「こんなものまで治療の対象になるのか」と驚かれることが多い科です。顔面であれば眼、鼻、耳、口すべてを対象とし、手足、胸、へそ、とにかく目に見えるものであればその変形や欠損を元の状態に近づけていくことを科の特徴としています。形成外科の疾患は基本的に外科的治療つまり手術を行い対応するものがほとんどです。手術というと怖がられる方も多いと思いますが、使う器械や針はデリケートなものが多く、細い針を使用したり、最小限の皮膚切開で手術を行うなど患者様の不安を少なくし、手術をすることで得られることが多い結果となるよう、笑顔のまま治療が終了するよう努力して日々の診療を行っております。体の表面のことであれば気軽に当科までご相談ください。

【診療・部署体制】

部長：若見 暁樹（わかみ さとぎ）
 専門分野：顎顔面外科/眼形成/小児先天異常
 資格・専門医・指導医等：大阪市立大学医学博士/大阪公立大学臨床教授/日本形成外科学会専門医・指導医/皮膚腫瘍外科指導専門医/小児形成外科分野指導医/乳房再建実施施設責任医師医員/乳房オンコプラスティックサージャリー専任医師/身体障害者福祉法第 15 条指定医（そしゃく

機能障害)

医長：上野 真理恵（うえの まりえ）

専門分野：形成外科一般

資格・専門医・指導医等：日本形成外科学会専門専門医・指導医

医員：鈴木 里咲（すずき りさ）

専門分野：形成外科一般

医員：安藤 加奈子（あんどう かなこ）

専門分野：形成外科一般

医員：築山 隆弘（つきやま たかひろ）

専門分野：形成外科一般

【特 色・トピックス】

2022 年 4 月よりスタッフ 5 名体制で運営しています。スタッフが増員されたことで、幅広い領域の疾患に対応が可能となっております。眼科病院との連携も進み、眼瞼領域の手術が充実して参りました。

【診 療・部署実績】

新患者数：1,223 名 入院患者数：299 名

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	235	0	235
腰麻・伝達麻酔での手技数	24	4	28
局所麻酔・その他での手技数	303	243	546
入院または全身麻酔の手技数計：562			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：247			
合計係数：685.5			

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	
外傷	84		18		2	6	110
先天異常	48		6			4	58
腫瘍	39		35		1	207	282
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	10		23			17	50
難治性潰瘍	34	24	58			3	119
炎症・変性疾患	13		30		1	3	47
その他	4		133			3	140
Extra レーザー治療	3						3

◆ 歯 科

【部署概要】

入院中の患者、他科受診中(周術期等)の患者、職員を対象とした診療を中心として行っており、他に近隣歯科医院や施設等より紹介のあった有病者に対する治療(抜歯等)を実施しています。

【診療・部署体制】

歯科部長：岡本美樹

非常勤歯科医師 2 名

歯科衛生士 4 名

月曜～金曜日 9:00～11:30、13:00～16:00

【特色・トピックス】

- ・一般の歯科治療：齲蝕治療、補綴修復、自費治療、義歯の作製・調整等
- ・歯周病治療：歯周ポケット測定、歯石・着色除去、ブラッシング指導等
- ・抜歯等の外科処置：開業医等からの紹介
- ・有病者に対する歯科治療
- ・周術期の口腔機能管理：手術前後及び化学療法中、緩和ケア中の患者を対象に実施
- ・BP 製剤等投与前の口腔内のチェック・投与中の管理
- ・入院中患者に対する口腔ケア：病棟担当衛生士を配置
- ・マウスピースの作製：歯ぎしり・顎関節症用、手術用等
- ・NST 回診に参加
- ・インプラント治療

【診療・部署実績】

受診患者総数(名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
546	525	483	549	515	456	570	504	515	559	531	511	6264

◆ 麻酔科

【部署概要】

2024 度は、前年度に引き続き常勤医 6 名と非常勤医 1 名で周術期管理をおこなった。総手術件数は 3,276 件と前年度より減少した。

【診療・部署体制】

麻酔科部長：棚橋識生

厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医
専門医共通機構認定麻酔専門医

副部長： 宋よんす

厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔認定医

副部長： 坂口 豪

厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医
専門医共通機構認定麻酔専門医

副部長： 三馬 葵

厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔専門医

副部長：	中川由紀子	専門医共通機構認定麻酔専門医 厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医
医長：	柴田 梢	専門医共通機構認定麻酔専門医 厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔専門医
医員：	岡田俊樹	専門医共通機構認定麻酔専門医 厚労省許可麻酔科標榜医・日本麻酔科学会麻酔指導医

【特 色・トピックス】

三馬医師、柴田医師が専門医共通機構認定麻酔専門医の資格を取得した。

【診 療・部署実績】

2024 年度は総手術件数 3,276 件、そのうち麻酔科管理症例は 2,714 件。全身麻酔件数 1,959 件、脊麻・伝麻 755 件であった。緊急手術は 494 件であった。
手術時間最長は、脳外科の脳腫瘍に対する開頭摘出手術、手術時間は 28 時間 16 分で、麻酔時間は 32 時間 4 分であった。

◆放射線診断科

【部署概要】

・総合病院の一般撮影・CT・MRI・RI・骨塩定量・マンモグラフィ・X線透視・血管造影（IVR）
脳神経リハビリ病院の一般撮影を常勤放射線科医師 4 名と非常勤医師、診療放射線技師 21 名で担当している。
・夜間当直を 1 人体制とオンコール対応で行い、一般撮影・CT・MRI・心臓血管撮影・頭部及び腹部血管撮影・血管内手術・エックス線 TV 等の緊急検査にも対応している。

【診 療・部署体制】

放射線診断部

部長：松尾 良一／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本インターベンショナルラジオロジー

学会専門医

部長：濱澤 良将／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本核医学会専門医、PET 核医学認定医、大阪市立大学医学部博士

副部長：谷口 明繁／日本医学放射線学会放射線診断専門医

副部長：池本 美奈子／日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本医学放射線学会指導医、検診マンモグラフィ読影認定医

【特 色・トピックス】

マンモグラフィ関連

- ・マンモグラフィ検査は、女性診療放射線技師 7 名が担当するように体制を整えた。
- ・乳腺外科ができたことで撮影件数が増加した。
- ・多根クリニックの女性スタッフが休暇の際、総合病院放射線科からマンモ業務に行く体制した。

MRI 関連

- ・当直帯で救急の検査を行うことで、日勤帯の病棟検査待ちが減少した。
- ・当日至急をすべて受け入れて検査を行った。
- ・病棟の検査依頼は看護師と連携を密にし、検査時間を指定する事で全体の検査を効率よく行うこと

が出来た。

- ・検査内容を医師と検討して、1検査あたりの撮影時間を短縮させることが出来た。
- ・MRI 夜診検査業務を行うことにより外来検査待ちが減少した。

C T 関連

- ・単純 CT のみ予約をオープンにした。
- ・予約枠に AM 枠、PM 枠を設けた。
- ・入院患者の CT 検査を 1 階救急用 CT で撮影する事にした。結果、3 階 CT 検査での待ち時間が減少した。
- ・入院患者当日撮影時間を始業前に決め、病棟への連絡を最小限にした。
- ・可能な限り当日依頼の造影 CT を受け入れた。
- ・救急 C T が毎年増加している。

医療安全対策

- ・部署内にヒヤリ・ハットを更に周知徹底させ、報告書を提出する努力を行った。
- ・インシデントが発生した場合はカンファレンスシートを用いて、速やかに対策を検討して問題解決

をはかりスタッフに周知した。

- ・放射線技師接遇規範を見直し周知徹底して患者様に接した。

業務改善

- ・造影剤同意書・問診表を更新した。
- ・定期的に看護師や他部署等と話し合いを行い、日常業務がスムーズに行えるようにする。
また問題発生時には看護部連絡会及び業務改善委員会等で早期に解決する。
- ・単純撮影業務において病棟患者の検査時間を指定する事で、全体の検査を効率よく行うことが出来た。
- ・手術室で毎日外科用イメージ業務を行うようにした。
- ・診療放射線技師の業務拡大に伴い造影検査後の抜針を技師も行う体制にした。

教育

- ・学会、研修会に積極的に参加して、スキルアップを行った。
- ・定期的勉強会等を行い技術の向上を図った。
- ・診療放射線技師法施行規則等の一部改正に伴い、日本診療放射線技師会が主催する告示研修を修了
し、当院にて静脈路確保研修を行った。

コスト削減

- ・当科で修理して使用できる物は、できる限り修理を行った。
- ・使用していない検査室の照明及び空調の電源は、細目に切り節電に心がけるようにした。

実習生の受け入れ

- ・4 施設の教育実習施設として指導を行った。

【診療・部署実績】

2024 年度実績

検査件数 2024 年 4 月～ 2025 年 3 月		2024 年度	2023 年度	2022 年度
	一般撮影	24, 396	26, 333	27, 464
	ポータブル撮影	8, 727	7, 949	8, 855
	上部消化管	0	2	2
	下部消化管	0	0	0
	エックス線TV	1, 479	1, 271	1, 293
	乳房撮影	698	612	569
	骨塩定量	290	326	372
	頭部血管撮影	128	191	162
	腹部血管撮影	21	22	29
	心臓血管撮影	267	247	224
	C T	30, 773	30, 923	31, 208
	M R I	7, 561	7, 413	7, 955
	R I	292	285	302

◆放射線治療科

【部署概要】

【医師および全体】

高精度放射線治療（IMRT、定位照射）を中心に年間約 250 件の治療を行った。他院では実施が困難な症例においても、エビデンスや十分な文献的考察に基づいた放射線治療を実践している。そのため、半数以上が他院からの紹介患者となっている。なお、安全かつ高精度の放射線治療を推進することを目的として、一定の基準を満たす施設を日本放射線腫瘍学会は認定施設としているが、当施設は 2017 年 4 月より同施設認定を受けている。

医師の初回診察時に治療方針が決定されるが、個々の患者にとって最適な放射線治療を提供できるよう、十分な説明の後に患者の意思決定がなされるよう特に配慮している。この初回診察時から、患者の不安軽減のために、看護師による介入も行われる。治療計画は医師・診療放射線技師により行われ、複数回の確認作業を経ることにより最適化している。診療放射線技師や医学物理士は治療成績に直結する日々の照射精度を担保するとともに、照射時の患者の精神的・肉体的苦痛の軽減に努めている。治療期間中には医師の定期診察や看護師の定期面談を行っているが、治療終了後にも医師やがん放射線療法看護認定看護師による継続的な経過観察を行い、治療効果判定や副作用に対する早期介入を行っている。これらの過程は、患者の QOL を保ち局所制御を得ることに役立っている。

診療部、看護部、医療技術部、管理部の各職種が共通の放射線治療業務フローに則って行動しているが、明文化された内容以外にも各職種間で補完しながら業務を行っている。また、業務フローは双方向性であるためにスタッフ一人ひとりのコミュニケーションが重要な部署である。円

滑な情報共有を行うために、各職種が参加する週 1 回の業務カンファレンスならびに症例カンファレンスを行っている。

【医療技術部門】

- 毎日放射線治療に通う患者さんに対し、接遇を大切にしながら正確な照射を行っている。
- 装置の品質管理に努め、高い治療精度を維持しながらダウンタイムを極力抑えるために QA/QC を継続的に実施している。
- 高精度放射線治療の治療計画の実施およびサポートを行っている。
- 機械学習ソフトを活用した治療計画の作成を行っている。
- 複雑化する治療計画に対して安全に治療が行われるか物理的視点から考察し、必要があれば医師とディスカッションを行っている。
- 安全に治療が行われるよう、MU 値の独立計算や 3 次元線量検証システムを用いた患者体内線量分布予測を行い、作成された治療計画の安全性を保証している。
- 照射技術・知識の自己研鑽のため、論文投稿や学会・研究会への参加・発表を積極的に行っている。

【看護師】

がん放射線療法看護認定看護師が、治療科専従看護師として 1 人体制で治療科における全診察業務、照射業務を担当しながら全患者さんの治療が安全・安楽かつ最小限の有害事象で予定された治療を完遂できるようサポートを行っている。また専従看護師が、外来患者さんの日々の体調確認および治療を安全・安楽に受けることができるよう照射担当診療放射線技師と連携しながらその日の記録を残すことで、外来照射診療料の算定を行っている。専従看護師不在時は、他の照射担当看護師および照射担当診療放射線技師への事前の申し送り、医師事務作業補助者へ診察業務の後日面談対応を依頼しながら不在時の現場調整を行っている。

【医師事務作業補助者】

医師の診療補助（オーダー入力・管理・診断書作成）、治療センター内の患者情報管理及び伝達調整、カンファレンス、他院からの治療依頼調整、治療検査着の管理、診察や検査予約の調整

【診療・部署体制】

【スタッフ】

<医師>

板垣 康	顧問
森本 英之	副部長

<診療放射線技師>

川守田 龍	医療技術部長（兼：放射線部門技師長）
中原 隆太	係長
古館 奈津希	
中坂 優太	

吉川 雅樹
郡田 遥士
岡村 徳高

【特 色・トピックス】

【医師】

・日本の現状では高精度治療の利点が十分に患者に還元されているとはいえない。当院では専門的知識に基づき、安全面に十分配慮したうえで、従来一般的に用いられているよりも幅広く高精度治療を実施し、その成績を国内外の学会・論文等で報告している。

・自由診療による高精度放射線治療を実践している。

・放射線治療専門医が2名在籍していることは、施設基準を満たすためのみならず、高精度治療を迅速に実施していくために今後も必要である。

【医療技術部門】

- 高度化する医療に対応するために Deformable Image Registration を使用したマルチモダリティの融合画像の作成や過去の線量分布の合算を行い、より適切な治療計画の作成に参画している。

- 複雑化する照射方法に対し、3次元線量検証システムを用いて患者体内線量分布を予測し、安全に治療が行われることを保証している。

- 機械学習ソフトを用いて、より最適かつ効率的な治療計画の作成を行っている。

- 治療装置の使用から10年以上が経ち、各部品の経年劣化が見られるようになった。一方で寡分割照射の件数増加など、複雑化する治療技術に対して安全で精度の高い放射線治療を実施するためにQA/QCを継続的に行っている。

- 金属アーチファクトを軽減した治療計画用CT画像の提供を行い、より治療に有用な画像を提供している。

- キロボルトのX線に対応した線量計を用い、各装置の被ばく線量を測定することにより医療被ばく管理を積極的に行っている。

【看護師】

・がん放射線療法看護認定看護師が特定行為研修を修了後、特定認定看護師として主に前立腺癌患者に対して脱水リスク評価を行いながら該当する患者においては手順書に沿って介入することで、治療中の膀胱尿量の再現性確保や医療被曝の低減に務めている。

・がん拠点病院として、がん放射線療法看護認定看護師が看護外来を開設しており治療期間中および治療後の患者さんのフォローを医師と連携しながら行っている。

【医師事務作業補助者】

他職種や他科との連携とりながら、治療や診察をスムーズにすすめられる様にサポートをしている。

【診 療・部署実績】

2024年度の照射件数は2,930件であり、うち1,681件(57%)が高精度放射線治療であった。その内訳は、IMRTが1,471件であり、定位照射が210件であった。

・上記の如く高精度治療の比重が高いことが当施設の特徴ではあるが、年度を通じて照射装置を高い精度下に管理することにより、安全に治療を実施できた。

◆救急科

【部署概要】

院内各科と協力し、救急患者対応を行っています。

【診療・部署体制】

常勤医 4 名に専攻医（大阪大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム内ローテーション）及び
初期臨床研修医で日勤帯の救急患者対応を行っています。

【特色・トピックス】

各科協力の下、救急搬送を積極的に受け入れ、2024 年度は 8,185 件の救急搬送患者を受け入れました。

【診療・部署実績】

救急搬送件数 8,185 件
ER 総受診患者数 16,947 人

◆腫瘍内科

【部署概要】

腫瘍内科では臓器横断的ながん薬物療法を中心に適切ながん治療を提供すべく各診療科、他職種と連携しながら診療を行っている。

2020 年 4 月にがん診療センターが新規オープンし、外来化学療法ベッドが 5 床から 15 床に増床した。また新たにアドバンス・ケア・プランニング外来を新設し、患者に合わせた最適な治療・療養方針を説明している。

がん薬物療法認定薬剤師・外来がん治療認定薬剤師による薬剤師外来を新設し、新規薬剤を用いた治療導入の際の服薬指導を行っている。

がん化学療法認定看護師によるがん薬物療法による有害事象、アピアランス・ケアなどを行っている。

がん専門看護師・乳がん看護認定看護師による全人的ケアの提供、特に乳がん患者への積極的ケアへの介入を行っている。

薬剤師外来のフォローは腫瘍内科で行っている。また、外来化学療法室での有害事象発生時に主治医とともに腫瘍内科で対応している。

2023 年 4 月からは腫瘍内科は常勤 2 名体制となり、腫瘍内科外来・入院症例のみならず、薬剤師外来や化学療法センターでの問題症例についてもカンファレンスで検討している。

最近ではがんゲノム医療の発展に伴い、家族性腫瘍・遺伝性腫瘍のコンサルト窓口を請け負っている。特に Lynch 症候群、遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するスクリーニング、遺伝カウンセリングを行っている。

がん関連学会の参加・発表、講演会、がん教育に積極的に関わっている。

がん薬物療法チームとして、治療方針の相談、有害事象に対する支持療法のアドバイスなども行っている。

【診療・部署体制】

腫瘍内科・副部長 岡田佳也
常勤医師 北代紗也
がん薬物療法認定薬剤師・薬剤部課長 其田学士
外来がん治療認定薬剤師・薬剤部係長 岩井裕香

がん化学療法看護認定看護師 久寶麻衣子
がん専門看護師・乳がん看護認定看護師 植村未奈子

【特 色・トピックス】

昨今がん診療の発展はめざましいが、その中心はがん薬物療法である。免疫チェックポイント阻害剤に代表される多種多様な薬剤が登場したことで治療の選択が広がっている。乳癌領域においては、免疫薬物複合体の登場により飛躍的に治療成績の向上がみられる。一方で有害事象も複雑化し、支持療法の重要性が指摘されている。欧米では以前から Oncology（腫瘍学）が専門分野として確立されているが、本邦では Oncologist（臨床腫瘍医）は相対的に大変少ない。これらのことから年々がん薬物療法の専門家の需要が高まってきており腫瘍内科医に求められる期待は大きい。最新のエビデンスに基づいた治療の実践と支持療法をきめ細やかに行うこと、また早期からの緩和治療の導入を積極的に行っており、がん診療をより患者個人に合わせた高精度医療を実践している。

近年ではがんゲノム医療がトピックスとなっており、主に Lynch 症候群、遺伝性乳癌卵巣癌症候群のスクリーニングを含めた遺伝カウンセリングを行っている。

【診 療・部署実績】

- ・腫瘍内科 外来件数（延べ人数）： 1,613 人
- ・腫瘍内科 外来化学療法加算件数： 664 件
- ・腫瘍内科 手術件数（ポート造設件数）： 51 件
- ・薬剤師外来件数 ：55 件
- ・薬剤師面談件数：531 件 がん患者指導管理加算件数：178 件 連携充実加算件数：264 件
- ・化学療法センター治療件数(延べ件数)：1,632 件

◆DS（日帰り手術）センター

【部署概要】

日帰り手術（短期滞在手術）は患者さんに多くのメリットのある治療方法である。多根総合病院 DS（日帰り手術）センターは、全国に先駆けて 1998 年に開設した日帰り手術を専門に行う施設で、2025 年 3 月末時点で 43,164 例の治療実績である。特に日帰りでは難しいと言われる胆石やソケイヘルニアなど数多くの経験を持っており、このうち約 99%の患者様が当日あるいは翌日に退院されている。2022 年 9 月より総室 6 床を夜間の E ルームとして運用することとなった。

【診 療・部署体制】

丹羽英記 統括院長/名誉センター長
小川 稔 院長
上村佳央 センター長
棚橋識生 副センター長
土屋康紀 副センター長
看護師（消化器外科棟とローテーション）
クラーク

【特 色・トピックス】

＜基本方針＞

短期滞在専門施設として社会的ニーズに応え、質の高い医療を提供する

＜目標＞ 患者満足度の高い接遇の実施

＜特色＞鼠径ヘルニア、胆石症手術、上下内視鏡検査・処置の症例維持

各科からの要望に応え、短期滞在治療に適した患者を受け入れる

【診療・部署実績】

2024 年度件数 1,283 (1,369)件 (昨年度)

《外科》472 (587)件 《消化器内科》384 (314)件 《泌尿器科》144 (158)件 《整形外科》13 (6)件 《形成外科》186 (227)件 《耳鼻科》65 (64)件 《皮膚科》5 (1)件

当日退院：24.0 (27.0)% 1泊入院：75.4 (72.0)% 2泊以上入院：0.6 (1.0)%

病床稼働率：164.7 (75.0)%

主な疾患数(昨年度)

《外科》

ソケイヘルニア248(336)	大腸ポリープ切除2(1)	大腸内視鏡検査26(22)
胆石・ポリープ39(65)	痔核48(59)	上株内視鏡検査31(29)
虫垂炎2(2)	CVポート留置/抜去7(3)	

《消化器内科》

大腸ポリープ切除138(137)	上下部内視鏡検査180(117)	大腸内視鏡検査38(33)
------------------	------------------	---------------

《形成外科》

皮膚皮下腫瘍39(29)	眼瞼下垂61(90)	鼻骨骨折27(30)
--------------	------------	------------

《泌尿器科》

前立腺生検97(91)	尿路結石33(46)	包茎5(10)
-------------	------------	---------

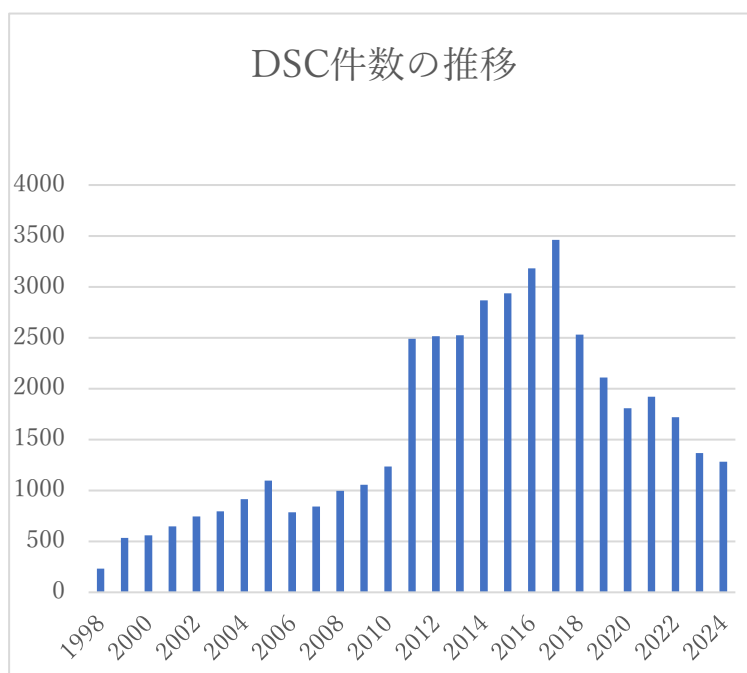
《耳鼻科》

副鼻腔炎17(19)	滲出性中耳炎12(12)	滲出性中耳炎12(12)
------------	--------------	--------------

《整形外科》

抜釘8(2)	経皮ピンニング1(2)
--------	-------------

DSC件数の推移



◆看護部

【部署概要・体制】

病棟	診療体制	病棟	診療体制
D S C	外科系・消化器内科等の日帰り、手術・短期滞在手術対象	10階	整形外科、形成外科、皮膚科
7階	消化器外科	11階	消化器内科
I C U		12階	泌尿器科
8階	循環器内科	緩和	緩和ケア
8H C U		手術室	
9階	脳神経外科・脳神経内科	救急外来	
9階H C U		一般外来	

【特 色・トピックス】

1. 研修業績・表彰など

- 1) 看護師特定行為研修 7 期生開校式：5 月 1 日 児玉千尋、池尾美咲、足達由
- 2) 認定看護管理者教育課程受講 ファーストレベル：柴田智美、泊春菜、
セカンドレベル：仲井由美
サードレベル：田中純子
- 3) 認定看護師教育課程 緩和ケア：下平晶子
- 4) 大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会：古賀希望、尾崎可奈、高木麻衣
- 5) 2025 年度内定予定者インターンシップ（12/21・1/25・2/15・3/22）38 名参加
- 6) 看護職員実務者研修「循環器総合コース」 池田知也
- 7) 医療安全管理者養成研修 行喜人、前田紗也佳、福田真実子
- 8) 看護師特定行為研修指導者講習会 米倉修司、田中純子、渡上朋美、栗山知弥、竹内裕美
- 9) 関西ストーマケア講習会 上野桜、安達芽依
- 10) 多職種連携会「タネまきの会」医療法人かもめクリニック共催研修会開催 11/29
- 11) 関西ストーマケア講習会・関西 STOMA 研究会 実行委員派遣：好岡 文葉
- 12) 公益社団法人大阪府看護協会 ストーマ・瘻孔のスキンケア ストーママーキング資格取得：陰山葵
- 13) 第 45 回関西ストーマケア講習会 ストーママーキング資格取得：上野桜、安達芽依
- 14) 2024 年度大阪府看護事業功労者受賞 應本勝美

2. 業務改善など

- 1) 2024 年 5 月 2 日 泌尿器科外来における平日時間外の透視室での処置介助中止 5/22～
- 2) 2024 年 4 月 1 日 救命救急士による静脈確保開始
- 3) 2024 年 4 月 障害者雇用 業務拡大（感染性 BOX 作成）（10/1 より中止）
- 4) 2024 年 5 月 1 日 救命救急士による抜針、アドレナリン投与開始
- 5) 2024 年 6 月 1 日 再入院連絡方法の変更（紙媒体運用中止）
- 6) 2024 年 6 月 3 日 院内デイケア（平日 14：00～16：00）開始（7/22 より中止→10/28 再開）
- 8) 2024 年 6 月 24 日 搬送アシストロボット試験運用開始（ER・11 階病棟）
- 9) 2024 年 6 月 20 日 入退院スクリーニングシート一部変更
- 10) 2024 年 7 月 1 日 輸血製剤の返却ルールの変更
- 11) 2024 年 7 月 1 日 がん看護外来再開（DS2 診）
- 12) 2024 年 8 月 15 日 エアマット管理をモバイル端末に変更
- 13) 2024 年 10 月 1 日 ER からの入院受け入れ調整電話連絡の廃止（モバイル端末活用）
- 14) 2024 年 10 月 法人内アルバイト管理を人財マネジメントセンターで一括管理に変更
- 15) 2024 年 10 月 21 日 放射線技師による造影ルート確保開始
- 16) 2024 年 10 月 23 日 西区在宅医療・介護連携検討会（救急医療における医療、介護連携を考える）※日生病院主催
- 17) 2024 年 11 月 7 日 下膳終了カード運用開始
- 18) 2024 年 11 月 25 日 OPE 出棟連絡にモバイル端末活用開始

- 19) 2025 年 1 月 6 日 入院面談時に薬剤情報スキャナー
- 20) 2025 年 1 月 20 日 DS 面談業務を一部患者サポートセンターに移行
- 21) 2025 年 2 月 1 日 予約入院来院時間を午後に変更

3. 学校講師・講義

- 1) 大阪府病院協会看護専門学校 成人を支える看護Ⅰ 中村亜衣子、有地正人、植村未奈子
健康障害と看護Ⅳ 渡上朋美、木田容子、寒竹朋代
- 2) がん教育 大阪泉尾工業高等学校 植村未奈子
浪速支援学校 植村未奈子
- 3) 九州医療科学大学 生命医科学部 臨床工学技士コース「看護学概論（30 時間）」
2025 年 1 月 25 日、1 月 31 日、2 月 1 日 講師：米倉修司

4. 日本看護協会・大阪府看護協会講師

- 1) 公益社団法人大阪府看護協会 2024 年 8/5～9/5 クリティカルケア認定看護師教育臨地実習受け入れ：
有地正人・矢野晋・米倉修司

5. 研修講師

- 1) 大阪市立港南中学校職業講話 2025 年 1 月 20 日 木田容子、脇田優佳
- 2) 大阪市立市岡東中学校職業講話 2025 年 2 月 5 日 吉田絵里、坂上智美
- 3) 大阪府看護協会 認定看護師教育課程 クリティカルケア看護養成課程 「相談」2024 年 7 月 19 日
講師：米倉修司
- 4) SQ 研究会（ヴェクソンインターナショナル）マネジメントリーダー「ワーク・ライフ・バランス」2025 年 3 月 20 日
講師：米倉修司

6. その他

- 1) 港区健康フェスタ 2024 2024 年 11 月 9 日 渡上朋美、應本勝美
- 2) 医師事務補助者研修（32 時間） 2024 年 9 月 13 日 講師：寺澤理佳
- 3) 日本脳神経看護学会関西部会研修会 診療報酬改定に伴う看護活動 2024 年 11 月 30 日 講師：應本勝美

【看護学生実習受け入れ】

- 1) 大阪府病院協会看護専門学校 3 年課程
- 3) 宝塚大学
- 4) 大和大学
- 5) 大阪医療看護専門学校
- 6) 関西医療福祉大学

- ふれあい看護体験 2024 年 7 月 23 日 東淀川高等学校
- 令和 6 年度 金蘭会高等学校「1 日看護体験会」受け入れ 2024 年 7 月 26 日、8 月 2 日
- クリティカルケア認定看護師教育課程臨地実習受け入れ（2024 年 8 月 5 日～9 月 5 日）：2 名
- 2024 年就職フェア参加 2024 年 5 月 1 日 渡上朋美、村上優華
- 看護 Roo！就活 2024 年 12 月 21 日 米倉修司、鳥屋原由子、浪瀬流綺
- 文化放送ナースナビ合同就職説明会 2025 年 1 月 18 日 渡上朋美、木田容子
- マイナビ就職説明会 2025 年 2 月 9 日 渡上朋美、児玉千尋、宮脇凜太郎

【診療・部署実績】

- 1. 看護目標に対する評価
 - 1) 看護部部署別中間評価（9 月）
 - 2) 看護部部署別目標評価（3 月）
- 2. 看護部委員会成果発表会（3 月）

◆薬剤部

【部署概要】

調剤・製剤・注射剤各業務、在庫管理、薬剤管理指導・医薬品に関する情報の収集と提供を中心に薬に関する業務を取りまとめている。2020年10月からSPD6名と共に在庫管理を行っている。

医薬品情報を加味した医薬品の安全かつ安定な供給に努め、また薬剤師の職能を生かせるようにチーム医療に貢献していける薬剤師の育成にも力を入れている。

<薬剤部の方針目標>

- 医薬品情報を加味した安全かつ安定的な医薬品供給を努める。
- 診療報酬算定可能な業務（病棟薬剤実施加算など）への取り組み
- 薬剤師教育の中で、専門・認定薬剤師を育成する。
- チーム医療に参画し、様々な領域で薬剤師としての能力を発揮できるよう取り組む
- 業務内容を見直し、他部門との連携を図る
- 実習生の受入れ体制を整えていく。

【診療・部署体制】

常勤薬剤師：18名 事務員 1名

夜勤体制あり

がん薬物療法認定薬剤師（1名） 毎週金曜 午後 薬剤師外来

外来がん治療認定薬剤師（1名） 毎週水曜 午前 薬剤師外来

【特色・トピックス】

<調剤室>

入院患者への内服・外用薬の調剤を行い、外来患者への一部院内調剤を行っている。2021年10月より診察室において院外処方箋発行となっており、保険薬局からの疑義照会についてはプロトコルを作成し、医師-薬剤師間で同意のもとで「疑義照会の簡素化」を行っている。オーダーリングシステムで医師が処方を入力し、薬剤部で処方箋と薬袋を発行し、主に一包化調剤している。適正在庫に努め発注も行っている。また一部予約入院の患者対象に薬剤部1F窓口で持参薬を預かり、初回面談を開始している。アレルギー歴や常用薬など情報把握した上で安全に薬剤が使用されるように努めている。

<注射室>

外来・入院患者の注射薬を個人セットして払い出しを行っている。抗がん剤治療に関しては投与前日までに、複数名の薬剤師で登録されたレジメンを確認し、薬剤を取り揃え、抗がん剤投与、当日に無菌調製室内の安全キャビネットを使用して無菌的(菌汚染の防止)、安全的(被爆の防止)に混注調製し提供している。また無菌調製室内のクリーンテーブルを使用して高カロリー輸液の無菌調製や院内製剤の調製も行っている。適正在庫に努め発注も行っている。

<病棟管理業務管理室>

入院患者さんを対象に、持参薬の薬歴管理をはじめ、入院中の内服薬、外用薬、注射薬、検査値等の情報を把握した上で、お薬のしおりを使って薬の説明を行うなど、安心して薬物治療を受けてもらえるよう努めている。バンコマイシン注やアルベカシン注などのTDM(適正な薬物療法を行うためのモニタリング)を行い、副作用のモニタリングや投与量の提案を行っている。また、副作用など患者さんから早期に聞き出して医師や看護師にフィードバックすることにより、症状が悪化することを未然に防いでいる。注射薬では流量や2種類以上投与される場合に配合変化を確認し、時には医師に処方提案をすることによってより良い医療の提供を目指している。

<医薬品情報管理室>

厚生労働省などの公的機関または製薬会社、書籍などから情報を収集・整理・保管し、医師や看護師などの医療スタッフへ情報提供を行っている。

薬事委員会の資料作成・採用医薬品の管理などの業務を行っており、DI 情報はイントラネット (CoMedix) や電子カルテで参照可能である。市販後調査や副作用報告について一元管理を行っている。また地域薬局と連携で月 1 回勉強会を行っており、情報の共有など連携を図っている。

<薬剤師外来>

がん薬物療法を受けている患者に対して「がん薬物療法認定薬剤師」または「外来がん治療認定薬剤師」が面談を行っている。治療で使用する薬剤の説明をはじめ、副作用やコンプライアンス等の確認をすることで、より良いがん治療に貢献出来るよう努めている。

<抗菌薬適正使用推進>

薬剤耐性 (AMR) 対策の推進、特に抗菌薬の適正使用推進の観点から、抗菌薬適正使用支援チームの組織を含む抗菌薬の適正使用を支援する体制を作り、AST (抗菌薬適正使用支援チーム) において広域抗菌薬・抗 MRSA 薬の使用症例、血液培養陽性症例、抗菌薬長期使用症例、主治医からの相談症例などをチームで検討し、その内容を主治医にフィードバックしている。

【診療・部署実績】

<調剤業務>

院外処方箋の監査、外来院内処方及び入院の調剤

2024 年度の 院外処方箋枚数： 4,260 枚/月、院内処方箋枚数：780 枚/月、

後発医薬品使用割合：92.5%

院外処方箋発行率 84.5%、入院処方箋枚数 5,559 枚/月

外来一包化：7 件/月 入院一包化：2206 件/月 持参薬一包化件数 2 件/年 (時間外)

11 月中旬より 10F 予約入院患者初回服薬指導 開始。11F も加え 2025 年 2 月 54 件・3 月 56 件実施。

<注射業務>

入院患者の注射投薬、高カロリー輸液、抗悪性腫瘍剤の混注、院内製剤調整、病棟薬剤在庫管理

2024 年度の入院注射処方箋枚数：8,185 枚/月、 外来注射処方箋枚数：294 枚/月

高カロリー輸液の無菌調製件数：160 件/月

外来入院抗悪性腫瘍剤の無菌調製件数：外来患者 132 件/月 入院患者 12 件/月

院内製剤件数：28 件/月

<病棟での薬剤活動・業務等>

病棟担当薬剤師は入院患者の薬歴の管理、服薬指導、情報提供等を行い患者に安心して薬物治療

を受けてもらえるように心掛けている。

2024 年度 薬剤情報提供算出 服薬指導患者数 553 人/月 服薬指導面会件数 604 件/月

薬剤管理指導等の加算件数 571 件/月 麻薬管理指導加算 8 件/月

持参薬鑑別：281 件/月 持参薬管理件数：451 件/月

抗 MRSA 薬 TDM 件数 (2024. 4 月～2025. 3 月)：バンコマイシン 281 件

<医師に対する支援>

処方代行修正件数 363 件/月

<DI 業務>

副作用報告：2 件/年

質疑応答：46 件/年

<薬学部実務実習受け入れ>

2024 年度 3 期 1 名

<治験審査委員会>

CRC（コーディネーター）薬剤師 4 名（兼任、1 名産休）で管理

治験審査委員会（IRB）に参加、議事録作成を行っている。2024 年度は開催されておらず。

<認定活動/チーム活動>

薬剤師が積極的に活動している院内のチーム活動

- ・がん薬物療法認定薬剤師 1 名、外来がん治療認定薬剤師 1 名、
患者指導、薬剤師外来、レジメン管理、処方修正代行
指導件数:41 件/月
がん患者指導管理料ハ算定件数：12 件/月
連携充実加算算定件数：23 件/月

- ・抗菌化学療法認定薬剤師 3 名（感染制御部・AST・ICT に所属）
カンファレンス（週 1 回）、ラウンド（週 1 回）・ICT ニュース作成・ICT 講習会講師
感染制御部のミーティング（週 1 回）

AST（抗菌薬適正試用支援チーム）として抗菌薬適正使用を支援するために広域抗菌薬や長期使

用症例の把握、抽出、検討、フィードバック、相談応需
抗菌薬に関する支援の受け入れ率：83%

ICT（感染制御チーム）6 名（認定薬剤師 3 名+薬剤師 3 名）
環境ラウンド（週 1 回）・ICT ミーティング（月 1 回）

- ・NST 専門療法士 3 名 + 薬剤師 2 名
ラウンド（週 2 回）、NST 会議（月 1 回）、NST 実施研修講師 又は ファシリテーター、
NST 講習会講師
1 回の回診:平均 20 人/週
- ・緩和ケアチーム（2 名の薬剤師で持ち回り制とした）
緩和ケアラウンド（週 1 回）・緩和ケアカンファレンス（週 1 回）
疼痛コントロール相談応需・術後支援等の話し合い

◆医療技術部 中央検査部門

【部署概要】

中央検査部門は、検体検査室・病理検査室・細菌検査室・生理機能検査室・中央採血室の 5 つのセクションに分かれており、正確、迅速、経済的、効果的に患者様の為、業務を行っています。

検体検査室では、血液や尿などを検体として生化学検査、血球数算定、クロスマッチ、尿検査、感染症、免疫検査などの臨床検査を実施しています。病理検査室では、組織診（術中病理組織診断）を主な業務とし、臨床検査技師が標本作製し病理医が診断しています。その他に解剖も実施しています。細菌検査室では、喀痰や尿、血液などから細菌の培養、同定を行い有効な抗菌薬を見つけるために薬剤感受性試験を実施しています。また、質量分析を利用した細菌同定を実施し、迅速に結果を報告しています。生理機能検査室では、心電図、肺機能検査・脳波・各種超音波検査などを実施し、患者様からの生体情報を臨床へ報告しています。中央採血室では、正確で迅速な臨床検査データを出すため、外来患者様の採血や鼻腔検体の採取を専任の臨床検査技師が実施しています。

【診療・部署体制】

臨床検査技師：31名（技師長1名、係長3名、主任1名、サブスーパーバイザー5名）
認定臨床検査技師：認定輸血検査技師（2名）、NST専門療法士（1名）、糖尿病療養指導士（2名）、超音波検査士（2名）、緊急臨床検査士（4名）、二級病理技術士（5名）、心電図検定1級（1名）3級（1名）、細胞検査士（2名）

【特色・トピックス】

正確で迅速な検査結果を報告するため、大阪府医師会・日本臨床衛生検査技師会・大阪府臨床検査技師会・各種メーカーの外部精度管理に積極的に参加し、臨床検査の精度向上に努めています。また、臨床検査適正化委員会や、輸血療法委員会を年数回実施し、業務の改善や輸血の適正な使用を行っています。チーム医療にも協力しており、NST、ICT、糖尿病教室運営に参加しています。新型コロナウイルス関連検査を院内で実施しており、2024年度件数は、PCR検査（142件）、抗原定性検査（4,967件）、抗原定量検査（7件）実施しています。

【診療・部署実績】

2024年度実績
安静心電図（6,098件）、心エコー（4,321件）、腹部エコー（4,577件）、乳腺エコー（859件）、頸部エコー（854件）、甲状腺エコー（356件）、肺機能（1,380件）、脳波（393件）、下肢血管エコー（815件）、外来採血（33,891件）、細胞検査（2,236件）、組織検査（5,994件）、一般細菌（11,497件）、結核菌培養（273件）、微生物検出検査（11,752件）、生化学検査（102,127件）、血清検査（45,456件）、一般検査（36,132件）、血液検査（95,793件）

◆医療技術部 臨床工学部門

【部署概要】

臨床工学部門では、心臓カテーテル検査や血液浄化、人工呼吸器・ME機器管理業務、ペースメーカー業務、脳神経モニタリング、手術室業務、CPAP導入説明、医療機器安全研修を行っています。24時間体制をとっており、緊急カテーテル検査や緊急透析、ME機器トラブル対応をしています。

【診療・部署体制】

臨床工学技士：9名

【特色・トピックス】

血液浄化業務：緊急透析を中心に腹水ろ過やその他特殊血液浄化を施行しています。
人工呼吸器業務：人工呼吸器のセッティングやトラブル対応、病棟ラウンド時に使用点検を実施しています。
心臓カテーテル業務：心臓カテーテル検査では、血管内超音波エコーの操作・解析やIABPやポ

リグラフ、ペースメーカーの操作、記録を行っています。

ME 機器管理業務：輸液・シリンジポンプなどの医療機器の中央管理を実施しています。清掃、点検を行っているため故障や破損の早期発見ができ安全かつ清潔な医療機器を提供しています。また、院内で報告される医療機器の大半の異常は、院内点検・修理で対応できるため、医療機器修理費用の削減と提供までの時間短縮ができます。

医療機器安全研修の実施：医療機器の安全使用のため、年 2 回の医療機器安全研修を開催しています。

ペースメーカー外来：外来に来られる患者のペースメーカー点検を実施しています。

手術室業務：手術室に 2 名が配属しており、機械出し・機器管理業務を行っています。

【診療・部署実績】

心臓カテーテル検査 83 件、 PCI 109 件、 EVT 9 件

アブレーション治療 53 件、 EPS 2 件

ペースメーカー植え込み

新規 12 件、交換 3 件、 PM 外来 191 件、 PM 点検 29 件

血液浄化

HD・HDF 35 件、 CHDF 8 件、 血漿交換 13 件 G-CAP 8 件

腹水濾過 28 件

脳神経モニタリング 32 件

機器管理

ME 機器日常点検 10,843 台、 ME 機器定期点検 1,359 台、 院内修理・トラブル対応 502 件 メーカー修理 124 件 手術室修理対応 237 件

手術業務

器械出し 789 件、外回り業務 334 件

CPAP

導入 10 件、解析 248 件

◆医療技術部 リハビリテーション部門

【部署概要】

KHS リハビリテーション部の急性期として心臓疾患、脳血管疾患、急性疾患に伴う廃用症候群、運動器疾患、呼吸器疾患、がん関連疾患などリハ医師が必要と判断するあらゆる患者様に急性期リハビリテーションを実施している。

また法人内の回復期、生活期のステージにおいても質の高いリハビリテーションをシームレスに提供できるよう多根脳神経リハビリテーション病院、多根第二病院、てんぽーざんと密に連携を図り、迅速な情報提供及び情報のフィードバックの徹底を常に心がけている。

【診療・部署体制】

リハビリテーション科専門医 1 名

理学療法士 16 名

作業療法士 1 名

言語聴覚士 3 名

リハ助手 1 名

受付事務 2 名

【特色・トピックス】

リハ医師の指示より理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士が早ければ入院当日から対応する。

また患者様の回復に応じて可能であればリハビリテーションセンターで実施し早期退院に努めている。

整形外科の手術後やスポーツ整形外来にて主治医がリハビリテーションを必要と判断した場合には、外来リハビリテーションを実施している。

また入院中のパーキンソン患者様に対して、適宜主治医が判断した上で退院後サポート体制強化のため外来リハビリテーションを行っている。

【診療・部署実績】

実施延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入院	2,125	2,307	2,203	2,288	2,208	2,008	2,055	1,934	2,190
外来	793	872	805	887	877	788	908	823	827
合計	2,918	3,179	3,008	3,175	3,085	2,796	2,963	2,757	3,017
	1月	2月	3月	合計					
	2,149	2,185	2,418	26,070					
	834	770	814	9,998					
	2,983	2,955	3,232	36,068					

入院疾患別延べ人数

	人数	%
心大血管リハビリ	1,598	6.12
脳血管リハビリ	12,473	47.84
廃用症候群リハビリ	3,477	13.33
運動器リハビリ	6,227	23.88
呼吸器リハビリ	2,282	8.75
がんリハビリ	13	0.04
合計	26,070	

◆医療技術部 栄養管理部門

【部署概要】

患者様自身の回復力を高め、疾病治療に貢献することを目的として、個々の病状にあわせた適正な栄養量の食事を提供。また治療の一環として患者様に食生活に関する知識や技術を習得させ、栄養状態の改善、疾病の治療、増悪や再発の防止に役立たせる指導を行っています。

【診療・部署体制】

7名の管理栄養士で入院患者の栄養管理、入院・外来の栄養指導・栄養相談、給食管理など食事・栄養に関する業務を実施。

入院は一人あたり1～2病棟受け持ち、栄養指導、栄養相談、嗜好、食事アレルギーの確認等を実施

外来の栄養指導は予約制となっているが当日対応も可

栄養サポートチーム(NST)はNST専任2名が2チームに分かれて活動

給食業務は日清医療食品(管理栄養士3名、調理師6名、調理員14名)に委託、多くの治療食、摂食・嚥下状態や安静度に合わせた食事形態、アレルギー・嗜好等様々な病状に合わせた食事に対応。

【特 色・トピックス】

入院患者の栄養管理、入院外来の栄養指導・栄養相談、委託給食管理など食事・栄養に関する業務を実施。

医療安全、栄養サポートチーム(NST)、褥瘡、感染制御、クリニカルパス、災害対策、緩和ケア、ACP、CS、脳卒中相談窓口、身体拘束最小化チーム、早期栄養介入（一部ハイケアユニット）、糖尿病教室プロジェクト等各チーム医療活動に参加。

給食業務は日清医療食品に委託、毎月イベントメニューやご当地メニュー等も全食種に対応。

食事摂取不良の患者様には、本人の嗜好や摂取量に応じて食事内容を調整した個別対応食を提供。

救急部屋(E ルーム) 夜間入院時の食事対応

濃厚流動食（消化態栄養剤）、補助飲料（クリアタイプ）の適宜検討、変更

嗜好調査(年2回実施 紙面对応)

施設間、業務ローテーション実施

2 大学からの臨地実習2 クール受け入れ

栄養の日「栄養ワンダー(日本栄養士会協賛)」院内啓発活動

栄養情報提供書（栄養サマリー）提供

診療報酬改定に伴う入院時食事療養費 UP(2024 年 6 月～)

【診 療・部署実績】

診療実績（件数）		2024
入院時食事療養費		385,786
内訳	入院時食事療養費 1	198,459
	入院時食事療養費 2	24,515
食堂加算		86,225
特別食加算		76,587
栄養食事指導		
個別 栄養 指導	入院（初回）	1,007
	入院（2回目以降）	149
	外来（初回）	127
	外来（2回目以降）	412
栄養管理		
栄養サポートチーム加算		868
早期栄養介入管理加算（250点/400点）		932 / 786
栄養情報連携料		761

個別栄養食事指導内訳（件）		
	入院	外来
糖尿病	224	307
高血圧	162	31
脂質異常症	4	86
心疾患	171	2
肥満	2	14
腎疾患	27	20
高尿酸血症	0	17
肝疾患	31	30
上部消化管（胃切/潰瘍）	65 / 59	
下部消化管（腸疾患）	181	6
膵疾患	43	5
がん	110	24
嚥下	16	2
低栄養/摂取不良	36	3
その他	22	0
貧血	2	0
2024 年度行事食		
	イベントメニュー	ご当地メニュー
4 月	お花見ご膳	鹿児島県郷土料理
5 月	こどもの日	埼玉県郷土料理
6 月	あじさいご膳	宮崎県郷土料理
7 月	七夕 土用の丑の日	沖縄県郷土料理
8 月	お盆	和歌山県郷土料理
9 月	敬老の日・お月見	
10 月	創立記念日	鳥取県郷土料理
11 月	勤労感謝の日	長野県郷土料理
12 月	クリスマス、冬至、年越しそば	
1 月	お正月	
2 月	節分	宮城県郷土料理
3 月	ひなまつり	愛知県郷土料理

◆医療安全管理部

【部署概要】

- ・医療安全管理体制の確保及び推進のために、副院長を委員長とした医療安全管理委員会を設置している。医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合に、発生した原因究明のための調査と分析、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を職員へ周知している。
- ・主な業務内容としては、①インシデント・アクシデントレポートの収集、分析及び管理②医療上の事故等、防止策の立案、実施及び評価③マニュアルの策定等④現場の実地点検等⑤医療安全に関する調査、注意喚起、職員に対する医療安全研修の企画・開催⑥全死亡事例の把握と医療事故調査・支援センターへの報告について必要性の確認⑦医療安全に係る患者相談である。

【診療・部署体制】

- ・医療安全管理体制加算Ⅰ
- ・医療安全対策地域連携加算Ⅰ（2018～）
連携病院：加算Ⅰ・多根眼科記念病院
加算Ⅱ・多根第2病院
加算Ⅰ・社会医療法人愛仁会千船病院（2021年度～）
- ・医療安全管理部の構成
医療安全管理部長：医師
医療安全管理者：看護師
医薬品安全管理者：薬剤師
事務局

【特色・トピックス】

1. インシデント・アクシデントレポートの分析及び対策等の検討
2. 医療安全ラウンド
3. 医療安全推進委員会の開催（年11回）
4. 医療安全管理委員会の開催（年12回）
5. 医療安全推進担当者活動支援
6. 医療安全研修の開催（年13回）
7. 医療安全対策・運営会議（週1回）
8. 医療安全対策地域連携加算に係る相互連携（年3回）
9. 大阪府医療安全対策委員会の参加（年12回）
10. 市西支部医療安全交流会の参加（年3回）
11. 病院実習学生オリエンテーション
12. 年間計画の医療安全研修以外の新人看護師対象医療安全研修の開催（年2回）新入職者研修
13. 医療安全管理マニュアルの改訂
14. 医療安全情報・学会・院外研修・医療安全ニュース等の情報発信

【診療・部署実績】

- ・2024年度インシデントレポート総報告件数：2,767件
 - ①インシデントレポート報告件数：1,706件
 - ②アクシデント報告件数：16件
 - ③ヒヤリ・ハット、その他の報告件数：1041件
- ・医療安全研修会（年回集合、e-ラーニング *新人看護師集合研修含む）

4月 新入職医療安全集合研修「医療安全総論・各論」「報告の意義、事故発生時の対応」
 4月 新人看護師研修「患者確認・6R」
 6月 新人看護師研修「インシデントレポートの書き方」
 8月 「患者安全の基本」
 8月 「心理的安全性」
 8月 「薬剤の安全管理」
 8月 ナレッジ研修「KYT（危険予知トレーニング）」
 8月 医局勉強会・管理職者研修「患者・家族とのトラブル予防、対応」
 9月 「KYT（危険予知トレーニング）」
 10月 「放射線障害防止について、造影剤アレルギーについて」
 10月 ナースエイド研修「KYT（危険予知トレーニング）」
 12月 新人看護師研修「KYT（危険予知トレーニング）」
 2月 急変を予測、迅速で効果的な対応

◆医療技術部 内視鏡部門

【部署概要】

内視鏡センタースタッフは総合病院医療技術部に所属しており、内視鏡検査・治療・緊急内視鏡など多岐にわたる専門的な内視鏡業務に従事しています。患者ファーストを掲げ、UP-DATEされた知識や高度な技術及び最先端機器により、良質な検査・治療を医師と共に提供しています。

外来検査では嘔吐反射の少ない経鼻内視鏡による上部内視鏡検査を多く手掛けており、入院の方は鎮静下での安楽で安心な内視鏡をサポートしています。大腸内視鏡検査においては、医師による高い内視鏡操作手技に加え、意識下鎮静法での無痛大腸内視鏡検査に定評があり地域に貢献しています。治療内視鏡においては消化管止血術をはじめ、ARMS(内視鏡的逆流防止粘膜切除術)・ESD・ERCP・EUS・小腸カプセル内視鏡・小腸バルーン内視鏡などのより専門的な検査・治療も数多く行っています。

【診療・部署体制】

内視鏡センター専任スタッフは20名で、看護職12名・臨床工学技士6名・事務職2名で構成されています。

内視鏡スコープ・関連機器洗浄部門は委託スタッフ4名で担っており、内視鏡技師指導の下ガイドラインに沿った機器管理を厳守し、内視鏡スコープ洗浄消毒後の培養検査も実施するなど、安全な内視鏡機器を提供しています。内視鏡センターに所属するスタッフはライセンスが多職種で、日本消化器内視鏡学会認定「日本消化器内視鏡技師」の資格を有するスタッフも11名在籍しており、より専門性の高い内視鏡サポートが提供できています。また、内視鏡技師資格取得を志し入職するスタッフも多く、日々成長し活躍する人材育成はスタッフ間の協同が確立している証とも言えます。

私たちは、開腹なしでも高度な治療が可能な内視鏡の凄さに興味を持ち続け、思いを共有し、スタッフ間で協力しながら日々楽しく仕事を行っています。また先生方との距離が近い環境は

知識を得る絶好のチャンスとなり、最先端治療で技術提供ができることはモチベーションアップにも繋がっています。

【特色・トピックス】

内視鏡実績として年間 11,000 件以上の消化器内視鏡件数を有しており、スクリーニング検査をはじめ内視鏡治療として、逆流性食道炎/胃食道逆流症(GERD)に対する ARMS/ARMP、食道・胃・大腸の早期がんに対する ESD、食道胃静脈瘤に対する EVL・EIS、胆膵疾患に対する ERCP・EUS, EUS-TA(Tissue Acquisition)、Interventional EUS、消化管・胆管メタリックステント留置術・PEG 造設・PETG 造設など多種多様の治療を実践しています。

また、膵癌の早期発見を目指したプロジェクトでは「TANE-P プロジェクト」と称し、膵癌の早期発見に力を入れています。内視鏡センターでは EUS 予約枠を増枠し、手術ができるステージで膵癌を見つけようという取り組みを行っています。

当院の特徴としては断らない救急体制のもと、迅速な緊急内視鏡の実施が上げられます。24 時間 365 日、緊急内視鏡ホットラインで救急隊と直接連携しており、消化管出血や消化管異物、S 状結腸軸捻転、急性胆管炎などの緊急内視鏡を要するような疾患に数多く対応しています。

待機を担う内視鏡スタッフは、通常業務以外でも 24 時間/365 日ローテーションでの緊急内視鏡を医師と共に支え、多くの患者を救命しています。

内視鏡スタッフの業務内容としては問診票・同意書など関連書類の確認、各種前処置、検査前後オリエンテーション、検査治療準備・検査治療サポート・片付け、機器管理・メンテナンス、治療中のデバイス操作・記録・診療請求、予約管理・患者情報収集、デバイス調整、管理など様々ありますが、多忙の中でも私達が心掛けているのは、常に患者に寄り添い最善な内視鏡を提供することです。

※詳細は消化器内科活動報告を参照

【診療・部署実績】

2024 年 総件数：11,826 件 ： 内訳

●上部内視鏡総数：7,166 件 →上部内視鏡：経口 2,718 件 / 上部内視鏡：経鼻 4,448 件

●下部内視鏡総数：2,879 件 →下部内視鏡：1,363 件/ポリペクトミー・EMR：1,380 件/大腸 ESD：49 件/止血

：42 件/S 状結腸捻転整復術：8 件/大腸ステント：17 件/大腸バルーン拡張術：2 件

/異物摘出術：3 件/経肛門的イレウスチューブ留置：2 件/瘻孔閉鎖術：3 件

●上部治療：612 件 →上部止血術：178 件/EVL・EIS・CA：105 件/PEG 造設：70 件/PTEG 造設：2 件/

異物摘出	
術：46件/バルーン拡張：22件/イレウスチューブ留置：61件/ステント留置：12件	
ED チューブ留置：9件/ポリペクトミー：7件/EMR：6件/MIAB：4件/瘻孔閉鎖術：1件	
胃捻転整復術：1件/ARMS：9件/LECS：2件/咽頭ESD：1件/ネオベール貼付1件	
●ERCP・胆膵治療：486件	→各手技切石術：123件/切石以外：332件/Axios：4件/ASE：27件
●EUS・EUS治療：623件	→EUS-BD：30件/EUS-CD:3件/EUS-AD:2件/EUS-LB：7件/EUS-CPN：2件
	/FNA:78件
	EUS：501件
●小腸内視鏡：60件	→カプセル：26件/異物摘出：3件/バルーン拡張：5件/止血術：6件/その他：20件
●PEG交換：94件	→PEG交換：88件/PTEG交換：6件

◆感染制御部

【部署概要】

総合病院内における院内感染発生の抑止、感染症診断と治療の適正化、外部から院内への感染症伝播阻止のために、院内感染対策委員会(ICC)、実活動チームである院内感染制御チーム(ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)およびICC下部組織である感染リンクスタッフ会を中心として、感染制御全般の活動を行っている。

【診療・部署体制】

医師3名、看護師1名、薬剤師3名、臨床検査技師1名、事務部1名の体制

1. 感染制御チーム(Infection Control Team)

医療関連感染防止対策を迅速かつ円滑に推進実施する期間として感染制御チーム(以下、ICT)を設置している。感染制御対策に関する情報収集、監視、教育、啓発、指導、及び介入の役割を担い、感染制御対策のための組織横断的な活動を行っている。

2. 抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team)

抗菌薬適性使用に関する事例を検討するために抗菌薬適正使用支援チーム(以下、AST)を置き、その組織及び運営に関し必要な事項を定め、抗菌薬の適正使用支援の推進を目的とし活動を行っている。

【特色・トピックス】

1. 院内感染対策委員会の開催(月1回、緊急時は随時開催)
2. 感染リンクスタッフ会の開催(月1回)
3. ICT講習会の開催(年10回)
4. ICTニュースの発行(月1回)
5. AST&ICTラウンド(週1回)
6. ASTカンファレンス(週1回)

7. 各部署における感染症（とくに院内感染）発生状況の把握
8. 臨床検体からの病原体（とくに薬剤耐性菌）分離状況の把握
9. 病原体の薬剤感受性動向の把握
10. 抗菌薬適正使用のチェックと指導
11. 消毒薬適正使用のチェックと指導
12. 手指・器材の洗浄・消毒実施状況の把握と指導
13. 感染性医療廃棄物の処理状況の把握と指導
14. 国内外における感染症流行状況の把握と感染防止対策の徹底
15. 感染症に関する各種届出の指導と確認
16. 健康保険感染防止対策加算病院連携
17. 講師派遣

・出張研修 亀望会コスモス苑 講師 宮崎 悠

◆卒後臨床研修センター

【部署概要】

初期臨床研修及び後期研修医の総合窓口業務を行う。

主な業務は初期臨床研修に関することで、医学生の見学・臨床実習の手配、リクルート活動・採用・実習・臨床研修修了までの事務的な部分や、厚生労働省に提出する各種書類の作成、協力病院との橋渡し業務等を行い、初期臨床研修に関する一連の事務手続き全てを担う。

【診療・部署体制】

卒後臨床研修センター長：森 琢児（副院長）

事務スタッフ：川本 博（人財マネジメントセンター課長）

他 1 名（専従）

【特色・トピックス】

2024 年 2 月 28 日(水)に卒後臨床研修病院認定機構(JCEP)の訪問調査を受審し、認定の更新が認められた。

また当院の臨床研修の実績が評価され、都市部の研修医募集定員が減らされる中、2026 年度開始の一般プログラムの募集定員が現状維持の 9 名、2026 年度から新しく始まる広域連携型プログラムの募集定員が 1 名と大阪府より通知を受け、実質 1 名の定員増となった。

【参加実績】

2024 年 5 月 26 日(日) レジナビフェア 2024（ブース訪問者 85 名）

2025 年 2 月 28 日(土) 近畿地区臨床研修病院説明会（ブース訪問者 10 名）

【開催実績】

2024 年 7 月 6 日(土) 多根総合病院説明会（参加学生 26 名）

【診療・部署実績】

2024 年度研修開始の研修医採用試験は募集人員 8 名に対して受験者は 24 名、倍率は 3.0 倍となった。マッチングシステムにより 8 名がフルマッチした。

2024 年度の 1 年次研修医は 11 名（たすき掛け研修医 3 名含む：大阪公立大学医学部附属病院より 2 名、奈良県立医科大学附属病院より 1 名）、2 年次研修医は 7 名であった。

2 年次全員が無事に初期臨床研修を終え、専攻医（後期研修医）として 1 名が当院の外科に残った。

◆事務部

【部署概要】

事務部は経営目的を達成するため、病院管理及び経営に必要な業務を担う。
医事課・診療支援課・患者支援課・管理課・事務部（総務・庶務・図書係）から構成される。

【部署体制】

【医事課】

患者の受診受付及び予約業務、保険登録・確認業務、診療報酬明細書を作成・請求業務、保険外診療請求業務

患者負担金未収管理及び督促業務、査定・減点対策業務、施設基準・診療報酬管理業務
医事関連システム対応業務、各種書類作成管理業務、診療報酬請求統計データ作成業務

【診療支援課】

医師事務作業補助業務、救急受付業務、電話交換業務、医事紛争対応業務、患者対応業務、カルテ開示対応業務

ボランティア受入対応業務、ES 業務など

【患者支援課】

入院患者の慢性期・回復期などの医療機関への転院調整ならびに施設への入所・帰所調整業務、自宅退院支援業務および関係機関との連絡・調整業務、経済的問題、社会資源、療養生活に関する相談（入院・外来）業務

紹介患者の受入（検査・外来・セカンドオピニオン・入院）に関するコーディネート業務、返書業務

専門医療機関、高次医療機関への転院・受診調整業務

開放型病院に関する業務（登録医総会や各科セミナーなどの企画・運用）

かかりつけ医の紹介（逆紹介）業務

【管理課】

➤システム係

総合・リハビリ病院の電子カルテ基幹マスタ管理業務

総合・リハビリ病院の電子カルテヘルプデスク業務

総合・リハビリ病院の部門システム連携管理業務

➤診療情報管理室

入院診療録の管理

診療録量的監査業務・診療録質的監査管理業務

DPC データ作成・修正・提出に関する業務

各種患者数集計業務

診療録貸出業務、診療録開示用資料出力業務

院内がん登録に係わる業務の全般

退院サマリー記載状況管理業務

病歴登録業務、入院患者疾病統計業務

電子カルテ新規文書作成・修正・管理業務、スキャナー画像データ削除業務

入院基本 DB（入院基本 DB）送達業務

➤総務・庶務・図書係

事務部長秘書業務、文書管理業務、部門・部署間調整業務、診療費未収督促対応業務（回収困難事案）

災害拠点病院関連業務、災害対応業務、災害対応物品管理業務、感染制御部関連業務、衛生管理業務

医療安全推進業務、防火防災関連業務、施設・設備管理業務、行政対応窓口業務（感染・災害補助金関連）

新規業務の業務フロー構築、総務業務一般（人事・給与・経理を除く）

図書室に関する管理運営業務全般（図書館司書の管理含む）、各部署専門分野以外の業務全般

【特 色・トピックス】

- ・新入院 9,639 人
- ・退院患者数 9,653 人
- ・延べ入院患者数 105,310 人
- ・延べ外来患者数 121,122 人
- ・平均在院日数 9.9 日
- ・紹介患者数 9,480 人

【各科医師スタッフ 資格一覧】

	施 設：	多根総合病院	部 署：	緩和医療科
役職・氏名	資 格			
緩和医療科部長 緩和ケアセンタ ー長 石丸 英三郎	近畿大学医学博士/日本緩和医療学会認定緩和医療認定医・研修指導者 緩和ケア指導者研修会修了/日本がん治療認定機構がん治療認定医 日本外科学会専門医/日本消化器外科学会認定医/消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会専門医・指導医/日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医/近畿外科学会評議員 身体障害者福祉法指定医（小腸・膀胱・直腸機能障害）/難病指定医 ICD 制度協議会インフェクションコントロールドクター			
医長 和田 健太郎	大阪大学医学博士/放射線科専門医、放射線治療専門医			

	施 設：	多根総合病院	部 署：	放射線科
役職・氏名	資 格			
部 長 松尾 良一	日本医学放射線学会放射線診断専門医/日本インターベンショナルラジオロジー 学会専門医			
副部長 濱澤 良将	日本医学放射線学会放射線診断専門医/日本核医学会専門医/P E T 核医学認定 医/大阪市立大学医学部博士副部長			
副部長 池本 美奈子	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導医/マンモグラフィ読影認定医			
副部長 谷口 明繁	日本医学放射線学会放射線診断専門医			
	施 設：	多根総合病院	部 署：	放射線治療科
役職・氏名	資 格			
顧問 板垣 康	放射線治療専門医 日本核医学会専門医			
副部長 森本 英之	放射線治療専門医			
	施設：	多根総合病院	部署：	放射線診断部
資格				人数
検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師				4
日本X線C T 認定技師				3
肺がんC T 検診認定技師				1
日本磁気共鳴専門技師				1

日本救急撮影認定技師				1
デジタルマンモグラフィ品質管理				2
第一種放射線取扱主任者				1
画像等手術支援認定診療放射線技師				1
オートプシーイメージング認定診療放射線技師				1
被ばく相談員				1
放射線管理士				2
臨床実習指導教員				1
	施設：	多根総合病院	部署：	放射線治療部
資格				人数
放射線治療専門放射線技師				4 名
医学物理士				2 名
放射線治療品質管理士				3 名
第一種放射線取扱主任者				2 名
医療情報技師				1 名

	施設：	多根総合病院	部署：	中央検査部
資格				人数
臨床工学士				1 名
糖尿病療養指導士				2 名
上級健康食品管理士				1 名
NST 専門療法士				1 名
二級臨床病理技術士血液				1 名
二級臨床病理技術士臨床化学				1 名
二級臨床検査士微生物学				2 名
二級臨床検査士循環生理				1 名
認定輸血検査技師				2 名
心電図検定 1 級				1 名
心電図検定 3 級				1 名
超音波検査士				2 名
緊急臨床検査士				4 名
有機溶剤作業主任者				1 名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者				1 名
遺伝子分析科学認定士（初級）				1 名
細胞検査士				2 名
ピンクリボンアドバイザー（中級）				1 名
臨地実習指導者				3 名

	施設：	多根総合病院	部署：	栄養管理部
資格				人数
N S T 専門療法士				4 名
糖尿病療養指導士				3 名
病態栄養認定管理栄養士				3 名
がん病態専門管理栄養士				1 名
栄養治療専門療法士 がん専門療法士				1 名
フードスペシャリスト				1 名

	施設：	多根総合病院	部署：	臨床工学部
資格				人数
3 学会合同呼吸療法認定士				2 名
透析認定士				1 名
ME 第 2 種				6 名
医療機器情報コミュニケーター				1 名

	施設：	多根総合病院	部署：	内視鏡センター
資格				人数
日本消化器内視鏡技師				13 名
ME 第 2 種				1 名
	施設：	多根総合病院	部署：	リハビリテーション部
資格				人数
3 学会合同呼吸療法認定士				6 名
認定理学療法士（呼吸）				1 名
認定理学療法士（循環器）				1 名
福祉住環境コーディネーター2 級				1 名
実習指導者講習会修了者				7 名
がんのリハビリテーション研修会修了者				2 名
理学療法士協会指定管理者（初級）				1 名

	施設：	多根総合病院	部署：	看護部
資格（看護師・准看護師の資格以外）				人数
認定看護管理者				1
MBA（経営学修士）				1
病院機能評価機構サーベイヤー				1
介護支援専門員				6
がん看護専門看護師				1
急性・重症患者看護専門看護師				1

老人看護専門看護師	1
集中ケア認定看護師	1
クリティカルケア認定看護師	2
皮膚・排泄ケア認定看護師	1
がん性疼痛看護認定看護師	1
感染管理認定看護師	1
乳がん看護認定看護師	1
がん化学療法看護認定看護師	1
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	1
認知症看護認定看護師	1
がん放射線療法看護認定看護師	1
特定行為看護師	16
大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会修了	19
3 学会合同 呼吸療法認定士	5
保健師	11
救急救命士	7
介護福祉士	1
ICLS インストラクター	5
MCLS インストラクター	1
JPTEC インストラクター	1
エンディングコンサルタント	1
医療安全管理者	8
重度訪問介護士	1
養護教諭 1 種免許	2
養護教諭 2 種免許	1
精神保健福祉士	1
メディカルハーブコーディネーター	1
日本アロマ環境協会アロマセラピー検定 2 級	1
アロマセラピー1 級	1
心電図検定 1 級	1
心電図検定 3 級	10
日本 DMAT 隊員	6
大阪 DMAT 隊員	6
コミュニケーションスキルアップ検定	1
日本短期滞在外科手術研究会認定 DS コーディネーター	2
関西ストーマケア講習会修了者	3
認知症ケア学会 認知症ケア専門士	1
診療情報管理士	2

院内がん登録実務中級者	1
医師事務作業補助	2
リンパドレナージセラピスト	1
第一種衛生管理者	2
文部省認定 秘書検定 2 級	1
実務技能検定協会 秘書検定 3 級	1
文部科学省後援秘書技能検定 2 級	1
医療秘書検定 2 級	1
医療秘書技能検定準 1 級	1
社会福祉主事	1
日本教育カウンセラー協会 ピアヘルパー	1
社会福祉主事任用資格	1
トリアージナース	2
腎不全療養指導士	1
保育士	1
秘書士称号認定	1
小学校 2 種教員免許	1
幼稚園教諭第二種	1
歯科医療事務管理士	1
オムツフィッター2 級・3 級	1
周術期管理チーム認定	1
中学校二種免許（家庭科）	1
手話技能検定 4 級	1
インターベーションエキスパートナース	1
日本糖尿病療養指導士	1
ピンクリボンアドバイザー	2
医療・介護・薬局事務検定	1
診療報酬請求事務能力認定	7
ホスピタルコンシェルジュ	1
医師事務作業補助（ドクターズクラーク）	3
医療事務検定試験 1 級	1
保険請求事務技能検定 1 級	1
中学校・高等学校 音楽科第一種教員免許	1
ヘルパー1 級・3 級	1
ホームヘルパー2 級	5
食育インストラクター	1
調理師	1
美容師	1

	施 設：	多根総合病院	部 署：	薬剤部
資 格				人数
抗菌化学療法認定薬剤師				3 名
がん薬物療法認定薬剤師				1 名
外来がん治療認定薬剤師				1 名
N S T 専門療法士				3 名
治験コーディネーター				4 名
認定実務実習指導薬剤師				3 名
日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師				2 名
日病薬病院薬学認定薬剤師				5 名
日本糖尿病療養指導士				2 名
日本DMA T				1 名
大阪DMA T				2 名

【学会発表】

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	消化器内科
会名称	第 5 回 IBD Next Generation in 大阪府			
発表テーマ	【症例提示・ディスカッション】 長期寛解維持を目指した UC 治療戦略について			
日時	2024 年 4 月 25 日	発表者	大舘秀太	
場所	大阪			
会名称	第 110 回日本消化器病学会総会			
発表テーマ	抗血栓薬内服者における上部消化管出血に対する内視鏡止血術の現状			
日時	2024 年 5 月 9 日-11 日	発表者	中尾栄祐，浅井 哲，赤峰瑛介	
場所	徳島			
会名称	第 110 回日本消化器病学会総会			
発表テーマ	十二指腸憩室出血に対し内視鏡的に止血し得た 1 例			
日時	2024 年 5 月 9 日-11 日	発表者	小泉 葵，中尾栄祐，橋本沙優里，松原佳穂，島 佳弘，橋村友哉，大舘秀太，神保仁美，松尾健司，竹下宏太郎，一ノ名巧，赤峰瑛介，藤本直己，浅井 哲	
場所	徳島			
会名称	第 107 回日本消化器内視鏡学会総会			
発表テーマ	医原性消化管穿孔に対する Over-The-Scope-Clip の有効性			
日時	2024 年 5 月 30 日-6 月 1 日	発表者	中尾栄祐，浅井 哲，赤峰瑛介	
場所	東京			
会名称	第 107 回日本消化器内視鏡学会総会			
発表テーマ	巨大結石に対する一期的完全結石除去における直接胆道鏡の有用性			
日時	2024 年 5 月 30 日-6 月 1 日	発表者	竹下宏太郎，松尾健司，浅井 哲	
場所	東京			

会名称	第 107 回日本消化器内視鏡学会総会		
発表テーマ	A case of iron deficiency anemia due to small intestinal polyp		
日時	2024 年 5 月 30 日-6 月 1 日	発表者	Yuma Fujita, Eisuke Nakao, Satoshi Asai
場所	東京		
会名称	第 107 回日本消化器内視鏡学会総会		
発表テーマ	宿便性閉塞性大腸炎に対して、スネアを用いた内視鏡的治療が奏効した一例		
日時	2024 年 5 月 30 日-6 月 1 日	発表者	松原佳穂, 竹下宏太郎, 小泉 葵, 橋本沙優里, 島 佳弘, 橋村友哉, 大舘秀太, 神保仁美, 松尾健司, 中尾栄祐, 一ノ名巧, 赤峰瑛介, 藤本直己, 浅井 哲
場所	東京		
会名称	第 107 回日本消化器内視鏡学会総会		
発表テーマ	外科的治療を行わずに止血を得られた十二指腸憩室出血の 4 例		
日時	2024 年 5 月 30 日-6 月 1 日	発表者	橋本沙優里, 竹下宏太郎, 小泉 葵, 松原佳穂, 島 佳弘, 橋村友哉, 大舘秀太, 神保仁美, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 藤本直己, 浅井 哲
場所	東京		
会名称	第 107 回日本消化器内視鏡学会総会		
発表テーマ	胆嚢癌による肝門部悪性胆管閉塞に対し EUS-hepaticogastrostomy with bridging を施行した一例		
日時	2024 年 5 月 30 日-6 月 1 日	発表者	中野遙星, 橋村友哉, 竹下宏太郎, 橋本沙優里, 松原佳穂, 小泉 葵, 島 佳弘, 藤田裕真, 大舘秀太, 神保仁美, 松尾健司, 中尾栄祐, 一ノ名巧, 藤本直己, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	東京		
会名称	第 60 回日本肝臓学会総会		
発表テーマ	びまん性肝疾患に対する超音波内視鏡ガイド下肝生検と経皮的肝生検の比較検討		
日時	2024 年 6 月 13 日-14 日	発表者	浅井 哲, 竹下宏太郎
場所	熊本		

【学会発表】	施設：総合病院				部署：消化器内科	
会名称	第 60 回日本肝臓学会総会					
発表テーマ	心窩部痛を契機に診断された早期梅毒性肝炎の 1 例					
日時	2024 年 6 月 13 日-14 日		発表者	内山千晴, 竹下宏太郎, 浅井 哲, 細田洋平		
場所	熊本					
会名称	第 3 回 WEST OSAKA Regional Workshop					
発表テーマ	微小膵癌を疑うも診療方針の決定に苦慮した 1 例					

日時	2024 年 6 月 21 日	発表者	藤田裕真, 竹下宏太郎, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 112 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	早期大腸癌に対する ESD での RDI (Red Dichromatic Imaging) 観察下粘膜局注に関する検討		
日時	2024 年 6 月 29 日	発表者	中尾栄祐, 浅井 哲, 赤峰瑛介
場所	大阪		
会名称	Crohn's Disease WEB Seminar		
発表テーマ	【座長】		
日時	2024 年 7 月 22 日	発表者	浅井 哲
場所	Web		
会名称	第 55 回日本膵臓学会大会		
発表テーマ	膵管ガイドワイヤー法における ERCP 後膵炎の発症に寄与する因子の検討		
日時	2024 年 7 月 25 日-26 日	発表者	竹下宏太郎, 浅井 哲
場所	宇都宮		
会名称	第 25 回多根総合病院開放型病院登録医総会		
発表テーマ	膵癌早期診断 TANE-P プロジェクトと GERD の新治療 ARMS について		
日時	2024 年 9 月 7 日	発表者	浅井 哲 竹下宏太郎
場所	大阪		
会名称	第 2 回 WE OPENERS		
発表テーマ	【Opening Remarks】 【司会】 総合討論 「胆道出血の診断とマネジメント」		
日時	2024 年 9 月 26 日	発表者	浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 2 回 WE OPENERS		
発表テーマ	EUS-HGS 後に胆道出血をきたした一例		
日時	2024 年 9 月 26 日	発表者	松原佳穂
場所	大阪		
会名称	モビプレップ配合内用剤インターネットライブセミナー		
発表テーマ	【演者】 Preincision Traction を用いた胃/大腸 ESD		
日時	2024 年 10 月 17 日	発表者	浅井 哲
場所	Web		
会名称	JDDW2024		
発表テーマ	出血性十二指腸潰瘍の内視鏡的止血術における Over-the-scope clip の有用性 【シンポジウム】		
日時	2024 年 10 月 31 日-11 月 3 日	発表者	小泉 葵
場所	神戸		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	消化器内科
--------	-----	------	-----	-------

会名称	JDDW2024		
発表テーマ	The usefulness of endoscopic ultrasound-guided liver biopsy for diffuse liver disease 【インターナショナルセッションワークショップ】		
日時	2024 年 10 月 31 日-11 月 3 日	発表者	Kotaro Takeshita, Satoshi Asai, Yohei Hosoda
場所	神戸		
会名称	第 11 回大腸検査法検討会		
発表テーマ	【演者】		
日時	2024 年 11 月 14 日	発表者	浅井 哲
場所	Web		
会名称	APDW2024		
発表テーマ	Two Cases of Endoscopic Antireflux Mucoplasty(ARMP) Using the Reopenable-Clip Over the Line Method(ROLM)		
日時	2024 年 11 月 21 日-24 日	発表者	Satoshi Asai, Kento Hisamatsu, Yuma Fujita, Kotaro Takeshita
場所	Bali		
会名称	APDW2024		
発表テーマ	Factors contributing to the development of post ERCP pancreatitis in pancreatic duct guidewire cannulation		
日時	2024 年 11 月 21 日-24 日	発表者	Kotaro Takeshita, Satoshi Asai, Kento Hisamatsu, Yuma Fujita
場所	Bali		
会名称	APDW2024		
発表テーマ	A case of local recurrence of the cholangiocarcinoma 10 years after surgery		
日時	2024 年 11 月 21 日-24 日	発表者	Kento Hisamatsu, Kotaro Takeshita, Yuma Fujita, Satoshi Asai
場所	Bali		
会名称	APDW2024		
発表テーマ	Seven cases of pre-incision clip traction (PICT) using the multiple-ring thread traction (MRTT)		
日時	2024 年 11 月 21 日-24 日	発表者	Yuma Fujita, Eisuke Nakao, Kento Hisamatsu, Kotaro Takeshita, Satoshi Asai
場所	Bali		
会名称	第 113 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会		
発表テーマ	内科的加療で改善が得られた十二指腸憩室穿孔の一例		
日時	2024 年 12 月 7 日	発表者	中田和希, 竹下宏太郎, 川崎健生, 松原佳穂, 小泉 葵, 茶園歩夢, 久松健人, 橋村友哉, 藤田裕真, 大舘秀太, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	大阪		
会名称	第 47 回日本消化器内視鏡学会近畿セミナー		
発表テーマ	【講師】急性・慢性膵炎に対する診断と内視鏡治療		
日時	2024 年 12 月 14 日	発表者	浅井 哲
場所	Web		

会名称	クローン病診療セミナー		
発表テーマ	【座長】		
日時	2024 年 12 月 18 日	発表者	浅井 哲
場所	大阪		
会名称	クローン病診療セミナー		
発表テーマ	【症例提示】クローン病の内科治療戦略～スキリージの使用経験をふまえて～		
日時	2024 年 12 月 18 日	発表者	大舘秀太
場所	大阪		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	消化器内科
会名称	日本消化器病学会近畿支部第 122 回例会			
発表テーマ	術後 10 年で局所再発し、肝膿瘍を契機に診断された遠位胆管癌の一例			
日時	2025 年 2 月 15 日	発表者	藤本尊秀，浅井 哲，赤峰瑛介，中尾栄祐， 竹下宏太郎，松尾健司， 大舘秀太，藤田裕真，橋村友哉，久松健人， 茶園歩夢，小泉 葵， 松原佳穂，川崎健生	
場所	京都			
会名称	日本消化器病学会近畿支部第 122 回例会			
発表テーマ	同時に 3 箇所の小腸重積をきたした 1 例			
日時	2025 年 2 月 15 日	発表者	谷口拓磨，竹下宏太郎，川崎健生， 松原佳穂，小泉 葵，茶園歩夢， 久松健人，橋村友哉，藤田裕真， 大舘秀太，松尾健司，中尾栄祐， 赤峰瑛介，浅井 哲	
場所	京都			
会名称	第 21 回日本消化管学会総会学術集会			
発表テーマ	消化管上皮下腫瘍に対する EUS-guided tissue acquisition および粘膜切開生検による診断法の検討			
日時	2025 年 2 月 21 日-22 日	発表者	中尾栄祐	
場所	東京			
会名称	第 21 回日本消化管学会総会学術集会			
発表テーマ	下部内視鏡検査後に発症した成人腸重積の一例			
日時	2025 年 2 月 21 日-22 日	発表者	永尾祐貴	
場所	東京			
会名称	第 97 回日本胃癌学会総会			
発表テーマ	早期胃癌に対する ESD における粘膜切開前牽引法（Pre-Incision Traction Method）が有効であった一例			
日時	2025 年 3 月 12 日-14 日	発表者	中尾栄祐，浅井 哲，赤峰瑛介，加藤弘記， 森 琢児	
場所	名古屋			
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会			
発表テーマ	十二指腸憩室穿孔に対して保存的加療で改善し得た一例			

日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	山上弘世, 竹下宏太郎, 川崎健生, 小泉 葵, 久松健人, 藤田裕真, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	名古屋		
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	同時に 3 箇所の小腸重積をきたした 1 例		
日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	小泉 葵, 竹下宏太郎, 川崎健生, 島 佳弘, 久松健人, 藤田裕真, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	名古屋		
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	急性胆嚢炎に対する超音波内視鏡下胆嚢ドレナージ術の有用性		
日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	竹下宏太郎, 川崎健生, 久松健人, 藤田裕真, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	名古屋		
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	大腸ステントによる Bridge to surgery を行った StageⅡ/Ⅲの閉塞性大腸癌の 切除後長期成績に関する検討		
日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	久松健人, 竹下宏太郎, 川崎健生, 小泉 葵, 藤田裕真, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	名古屋		
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	内科的治療で改善し得た出血と穿孔を伴う多発十二指腸潰瘍の一例		
日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	久松健人, 竹下宏太郎, 川崎健生, 小泉 葵, 藤田裕真, 松尾健司, 中尾栄祐, 赤峰瑛介, 浅井 哲
場所	名古屋		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	脳神経内科
会名称	日本神経学会第 128 回近畿地方会			
発表テーマ	ADSSL1 ミオパチーの兄弟例			
日時	2024/7/6	発表者	田中なつき、白石翔一、西野一三、 柳原武彦	
場所	大阪府、大阪市			
会名称	日本神経学会第 129 回近畿地方会			
発表テーマ	マイコプラズマ肺炎との関連が推測される抗 MOG 抗体陽性脊髄炎の 1 例			
日時	2024/12/7	発表者	飯田薫子、國方桃代、白石翔一、 仲辻有佑、小玉大地、 江並朋美、田中なつき、吉田智子、 柳原武彦	
場所	大阪府、豊中市			
会名称	日本神経学会第 129 回近畿地方会			
発表テーマ	COVID-19 による急性壊死性脳症の一例			

日時	2024/12/7	発表者	仲辻有佑、白石翔一、國方桃代、 小玉大地、江並朋美、 北村絵未、田中なつき、吉田智子、 柳原武彦
場所	大阪府、豊中市		
会名称	STROKE2025		
発表テーマ	介護施設入所者に対する機械的血栓回収療法の治療成績		
日時	2025/3/6-2025/3/8	発表者	小玉大地、仲辻有佑、國方桃代、 江並朋美、田中なつき、吉田智子、 白石翔一、柳原武彦
場所	大阪府、大阪市		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	外科
会名称	住友ファーマ株式会社社内研修会			
発表テーマ	【講師】			
日時	2024 年 4 月 18 日	発表者	柄池真規子	
場所	大阪			
会名称	第 60 回日本肝臓学会総会			
発表テーマ	心窩部痛を契機に診断された早期梅毒性肝炎の 1 例			
日時	2024 年 6 月 13 日-14 日	発表者	内山千晴，竹下宏太郎，浅井 哲， 細田洋平	
場所	熊本			
会名称	第 36 回日本肝胆膵外科学会・学術集会			
発表テーマ	The usefulness of EUS-guided biliary drainage for patients with advanced malignant biliary obstruction.			
日時	2024 年 6 月 28 日-29 日	発表者	今中 孝，細田洋平	
場所	広島			
会名称	第 32 回日本乳癌学会学術総会			
発表テーマ	健康診断を契機に発見された CA19-9 高値の乳癌の一例			
日時	2024 年 7 月 11 日-13 日	発表者	北代紗也，岡田佳也，西 敏夫	
場所	仙台			
会名称	大阪急性期総合医療センター緩和ケア研修会			
発表テーマ	【ファシリテーター】			
日時	2024 年 7 月 13 日	発表者	柄池真規子	
場所	大阪			
会名称	第 79 回日本消化器外科学会総会			
発表テーマ	腹痛を伴う腸間膜に発生した Castleman 病の一例			
日時	2024 年 7 月 17 日-19 日	発表者	今中 孝，細田洋平	
場所	下関			
会名称	第 654 回大阪外科集談会			
発表テーマ	絞扼性腸閉塞との鑑別を要した、小腸アニサキス症の 1 例			

日時	2024 年 7 月 27 日	発表者	杉村大地，細田洋平，廣部雅臣，福田雄介， 大竹弘泰，今中 孝，實近侑亮， 林田一真，加藤弘記，久戸瀬洋三， 金 浩敏，土屋康紀，森 琢児，小川淳宏， 上村佳央，西 敏夫，丹羽英記，小川 稔
場所			
会名称	第 25 回多根総合病院開放型病院登録医総会		
発表テーマ	【座長】		
日時	2024 年 9 月 7 日	発表者	小川淳宏
場所	大阪		
会名称	第 25 回多根総合病院開放型病院登録医総会		
発表テーマ	大腸癌に対する治療について		
日時	2024 年 9 月 7 日	発表者	金 浩敏
場所	大阪		
会名称	研修医の明日に役立つ実践セミナー		
発表テーマ	【座長】		
日時	2024 年 10 月 17 日	発表者	森 琢児
場所	Web		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	外科
会名称	第 77 回鳥取大学医学部外科学第一講座開講記念会			
発表テーマ	【特別記念講演】 明るい外科の未来に向けて～働き方改革の中での外科発展への工夫と提案			
日時	2024 年 10 月 20 日	発表者	森 琢児	
場所	鳥取			
会名称	JDDW2024			
発表テーマ	当院でのロボット支援下手術の導入とその短期成績についての検討			
日時	2024 年 11 月 1 日	発表者	加藤弘記, 大竹弘泰, 福田雄介, 今中 孝, 實近侑亮, 林田一真, 細田洋平, 森 琢児, 小川淳宏, 上村佳央, 丹羽英記, 小川 稔	
場所	神戸			
会名称	第 655 回大阪外科集談会			
発表テーマ	腹腔鏡手術後の遅発性下腹壁動脈出血の 1 例			
日時	2024 年 11 月 9 日	発表者	山口瑛大, 實近侑亮, 廣部雅臣, 福田雄介, 大竹弘泰, 今中 孝, 林田一真, 加藤弘記, 久戸瀬洋三, 細田洋平, 金 浩敏, 土屋康紀, 森 琢児, 小川淳宏, 上村佳央, 西 敏夫, 丹羽英記, 小川 稔	
場所	大阪			

会名称	第 86 回臨床外科学会学術集会		
発表テーマ	胃癌術後に Petersen hernia 嵌頓による輸入脚症候群（腓炎）を発症した 1 例		
日時	2024 年 11 月 21 日-23 日	発表者	河本知樹，森 琢児，廣部雅臣， 福田雄介，大竹弘泰， 今中 孝，實近侑亮，林田一真， 加藤弘記，久戸瀬洋三，細田洋平， 金 浩敏，土屋康紀，小川淳宏， 上村佳央，西 敏夫，丹羽英記， 小川 稔
場所	宇都宮		
会名称	第 86 回臨床外科学会学術集会		
発表テーマ	先天性胃嚢胞から発生した胃癌の症例		
日時	2024 年 11 月 21 日-23 日	発表者	三好拓也，森 琢児，廣部雅臣， 福田雄介，大竹弘泰， 今中 孝，實近侑亮，林田一真， 加藤弘記，久戸瀬洋三， 細田洋平，金 浩敏，土屋康紀， 小川淳宏，上村佳央， 西 敏夫，丹羽英記，小川 稔
場所	宇都宮		
会名称	第 86 回臨床外科学会学術集会		
発表テーマ	働き方改革開始に伴う地域拠点病院での現状と課題		
日時	2024 年 11 月 21 日-23 日	発表者	森 琢児，廣部雅臣，福田雄介， 大竹弘泰，今中 孝， 實近侑亮，林田一真，加藤弘記， 久戸瀬洋三，細田洋平， 金 浩敏，土屋康紀，小川淳宏， 上村佳央，西 敏夫， 丹羽英記，小川 稔
場所	宇都宮		
会名称	第 86 回臨床外科学会学術集会		
発表テーマ	上行結腸癌切除後 11 年目に出現し治癒切除し得た転移性肝癌の一例		
日時	2024 年 11 月 21 日-23 日	発表者	實近侑亮，小川 稔，廣部雅臣， 福田雄介，大竹弘泰， 今中 孝，林田一真，加藤弘記， 久戸瀬洋三，細田洋平， 金 浩敏，土屋康紀，森 琢児， 小川淳宏，上村佳央， 西 敏夫，丹羽英記
場所	宇都宮		
会名称	第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会		
発表テーマ	閉塞性大腸癌に対し Bridge to surgery として大腸ステントを留置した患者において留置後ステント再閉塞を生じた 6 症例の検討		
日時	2024 年 11 月 29 日-30 日	発表者	實近侑亮，小川淳宏，久戸瀬洋三，

場所	横浜		細田洋平, 金 浩敏, 小川 稔
会名称	第 37 回日本内視鏡外科学会総会		
発表テーマ	Circular Stapler の自動型－手動型の違いは術後縫合不全のリスク因子となりうるかの検討		
日時	2024 年 12 月 5 日-7 日	発表者	實近侑亮, 久戸瀬洋三, 廣部雅臣, 福田雄介, 大竹弘泰, 今中 孝, 林田一真, 加藤弘記, 細田洋平, 金 浩敏, 土屋康紀, 森 琢児, 小川淳宏, 上村佳央, 西 敏夫, 丹羽英記, 小川 稔
場所	博多		
会名称	第 97 回日本胃癌学会総会		
発表テーマ	早期胃癌に対する ESD における粘膜切開前牽引法 (Pre-Incision Traction Method) が有効であった一例		
日時	2025 年 3 月 12 日-14 日	発表者	中尾栄祐, 浅井 哲, 赤峰瑛介, 加藤弘記, 森 琢児
場所	名古屋		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	外科
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会			
発表テーマ	上腸間膜動脈塞栓症に対して血管内治療が奏効した 1 例			
日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	宮尾哉希, 實近侑亮, 森 琢児, 大竹弘泰, 今中 孝, 林田一真, 久戸瀬洋三, 細田洋平, 小川淳宏, 小川 稔, 丹羽英記	
場所	名古屋			
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会			
発表テーマ	腹腔鏡手術後の遅発性下腹壁動脈出血の 1 例			
日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	實近侑亮, 久戸瀬洋三, 大竹弘泰, 今中 孝, 林田一真, 細田洋平, 森 琢児, 小川淳宏, 小川 稔, 丹羽英記	
場所	名古屋			
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会			
発表テーマ	【特別企画 若手起用促進委員会（討論）】挑戦者求む！ 「腹部救急症例」に挑む若手医師とベテラン医師の方々へ～診療科の壁を超えて繰り広げられる究極の Decision Making バトル！～			
日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	實近侑亮	
場所	名古屋			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	緩和医療科
会名称	JCHO 大阪病院 PEACE 緩和ケア研修会			
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修			
日時	2024 年 7 月 20 日	発表者	石丸 英三郎	

場所	JCHO 大阪病院		
会名称	多根総合病院主催 緩和ケアセミナー		
発表テーマ	緩和ケアの輪を地域に広げる取り組み		
日時	2024 年 9 月 26 日	発表者	石丸 英三郎
場所	多根総合病院		
会名称	大阪緩和ケア連携カンファレンス		
発表テーマ	緩和的放射線治療について		
日時	2024 年 11 月 19 日	発表者	石丸 英三郎（座長）
場所	久光製薬大阪支店		
会名称	近畿大学病院 PEACE 緩和ケア研修会		
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修		
日時	2025 年 2 月 2 日	発表者	石丸 英三郎
場所	近畿大学病院		
会名称	多根総合病院 PEACE 緩和ケア研修会		
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修		
日時	2025 年 2 月 8 日	発表者	石丸 英三郎
場所	多根総合病院		
会名称	第 29 回日本緩和医療学会学術大会		
発表テーマ	緩和的放射線治療「きほんのき」		
日時	2024 年 6 月 15 日	発表者	和田 健太郎
場所	神戸コンベンションセンター		
会名称	第 25 回多根総合病院開放型病院登録医総会		
発表テーマ	緩和的放射線治療を地域へ		
日時	2024 年 9 月 7 日	発表者	和田 健太郎
場所	アートホテル大阪ベイタワー		
会名称	多根総合病院主催 緩和ケアセミナー		
発表テーマ	緩和的放射線治療を地域へ		
日時	2024 年 9 月 26 日	発表者	和田 健太郎
場所	多根総合病院		
会名称	大阪緩和ケア連携カンファレンス		
発表テーマ	緩和的放射線治療 Update		
日時	2024 年 11 月 19 日	発表者	和田 健太郎
場所	久光製薬大阪支店		
会名称	日本放射線腫瘍学会第 37 回各術大会		
発表テーマ	緩和照射を普及させるための好事例集		

日時	2024 年 11 月 23 日	発表者	和田 健太郎(共同演者)
場所	パシフィコ横浜		
会名称	第 160 回かたろう会		
発表テーマ	緩和照射を世に広めるのが私の使命		
日時	2024 年 12 月 21 日	発表者	和田 健太郎
場所	コンファレンスプラザ大阪御堂筋		
会名称	多根総合病院 PEACE 緩和ケア研修会		
発表テーマ	PEACE プロジェクトの緩和ケア研修		
日時	2025 年 2 月 8 日	発表者	和田 健太郎
場所	多根総合病院		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	整形外科
会名称	第 50 回日本骨折治療学会学術集会			
発表テーマ	上腕骨近位端骨折に対する関節鏡視下髄内釘固定術の経験			
日時	2024/6/28-29	発表者	永井 宏和 八木桂太郎 今井晋二	
場所	仙台			
会名称	第 51 回日本肩関節学会学術集会			
発表テーマ	関節鏡視下肩鎖関節 3 重束再建術の治療成績と展望			
日時	2024/10/25-26	発表者	永井 宏和 中島 亮 松村 健一 米田 真悟 藤原 圭 城内 泰造 今井 晋二	
場所	京都			
会名称	第 51 回日本肩関節学会学術集会			
発表テーマ	日常診療における肩関節外科医としてのこだわり			
日時	2024/10/25-26	発表者	永井 宏和	
場所	京都			

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	脳神経外科
会名称	第 32 回日本意識障害学会			
発表テーマ	一般病棟・ICU における意識障害への対応の進歩と課題			
日時	2024/7/28～2024/7/29	発表者	小畑仁司	
場所	愛知県、名古屋市			
会名称	第 27 回日本脳低温療法・体温管理学会 学術集会			
発表テーマ	急性硬膜下血腫に対する脳低温療法. Meta-analysis による有効性の検証			
日時	2024/7/28～2024/7/29	発表者	小畑仁司	
場所	東京都			
会名称	第 27 回日本脳低温療法・体温管理学会 学術集会			
発表テーマ	最重症くも膜下出血（WFNS Grade V）に対する脳低温療法. 自験 177 例の総括			
日時	2024/7/28～2024/7/29	発表者	小畑仁司	

場所	東京都		
会名称	第 36 回日本脳死・脳蘇生学会 総会・学術総会		
発表テーマ	脳蘇生に関わるハンズオンセミナー活動報告		
日時	2024/8/31～2024/9/1	発表者	星山栄成, 梁 成勲, 松原崇一朗, 藤本佳久, 江川悟史, 本田ゆみえ, 横堀将司, 谷崎義生, 小畑仁司, 黒田泰弘, 永山正雄
場所	東京都		
会名称	第 36 回日本脳死・脳蘇生学会 総会・学術総会		
発表テーマ	ABC から CAB へ：高槻から始まった救急蘇生のパラダイムシフト		
日時	2024/8/31～2024/9/1	発表者	小畑仁司
場所	オンライン		
会名称	2nd Neurol-Emergencies and Critical Care (NECC) International Symposium		
発表テーマ	Progress of Brain Hypothermia Treatment for Severe Subarachnoid Hemorrhage - 177 Cases Experienced		
日時	2024/9/7	発表者	Hitoshi Kobata
場所	台北		
会名称	第 52 回日本救急医学科総会・学術集会		
発表テーマ	救急医による神経集中治療;救急科, 脳神経内科・外科ダブルボード専門医の意識調査結果		
日時	2024/10/13～2024/10/15	発表者	永山正雄, 梁 成勲, 星山栄成, 小畑仁司
場所	宮城県、仙台市		
会名称	Neurocritical Care Society 21st Annual Meeting		
発表テーマ	When Does Rebleeding Occur in Subarachnoid Hemorrhage? Revisiting Rebleeding Cases		
日時	2024/10/14～2024/10/17	発表者	Hitoshi Kobata, Adam Tucker, Gemmalynn Sarapuddin
場所	San Diego		
会名称	日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会		
発表テーマ	未破裂脳底動脈先端部瘤に対するコイル塞栓術後に併発した閉塞性水頭症に対し 第 3 脳室底開窓術が有効であった一症例		
日時	2024/10/16～2024/10/18	発表者	三木義仁, 田邊翔吾, 西居純平, 藤城高広, 住岡真也, 柳川信子, 小畑仁司, 小川竜介, 多根一之
場所	神奈川県、横浜市		
会名称	第 30 回日本脳神経外科救急学会		
発表テーマ	トリアージにおける瞳孔反応評価の可能性 瞳孔収縮率は Traumatic brain injury の重症度を反映する		
日時	2025/2/6～2025/2/7	発表者	中尾隼三, 吉村亘平, 蒲原明宏, 榊原謙, 雨宮優, 畠山淳司, 太田孝志, 山川一馬, 小畑仁司, 高須朗, 鰐淵昌彦
場所	東京都		
会名称	Stroke2025 第 50 回日本脳卒中学会学術集会		
発表テーマ	穿通枝梗塞と紡錘状動脈瘤を併発した Actinomyces israelii 髄膜炎の一例		
日時	2025/3/6～2025/3/8	発表者	三木義仁, 森本隆之, 藤城高広,

場所	大阪府、大阪市		住岡真也，柳川伸子，小畑仁司， 小川竜介，多根一之
会名称	Stroke2025 第 50 回日本脳卒中学会学術集会		
発表テーマ	ヨード・アレルギーのある低位後交通動脈瘤症例に対する単純 MRI/CT perfusion 画像に基づくクリッピングの経験		
日時	2025/3/6～2025/3/8	発表者	小川竜介， 夏目勇人， 蔭西恵美， 岩井康平， 森本隆之， 藤城高広， 三木義仁， 住岡真也， 柳川伸子， 小畑仁司， 多根一之
場所	大阪府、大阪市		
会名称	Stroke2025 第 54 回日本脳卒中の外科学会学術集会		
発表テーマ	最重症くも膜下出血の評価と治療戦略		
日時	2025/3/6～2025/3/8	発表者	小畑仁司
場所	大阪府、大阪市		
会名称	44th International Symposium on Intensive Cre and Emergency Medicine		
発表テーマ	Relationship between serum sodium concentration trajectories and neurological outcomes in patients with out-of-hospital cardiac arrest resuscitated by ecmo; a secondary analysis of the save-j ii study		
日時	2025/3/18～2025/3/21	発表者	Y Amemiya, R Hisamune ; H Kobata ; R Zushi; T Totoki ; N Ushio ; K Yamakawa ; A Takasu
場所	Brussels		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	泌尿器科
会名称	第 255 回日本泌尿器科学会関西地方会			
発表テーマ	MOCRPC に対しダロルタミドを投与後、薬剤性多型紅斑を来した 1 例			
日時	2024 年 2 月 4 日	発表者	吉川貴之祐、市居大季、 飯田孝太、 伊丹祥隆、細川幸成、中井大介、 藤本清秀	
場所	奈良市			
会名称	第 111 回日本泌尿器科学会総会			
発表テーマ	CT での前立腺石灰化体積が PFS・TURP 治療成績に及ぼす影響の検討			
日時	2024 年 4 月 25 日-4 月 27 日	発表者	伊丹祥隆、吉川貴之祐、 飯田孝太、 橋村正哉、細川幸成、藤本清秀	
場所	横浜市			
会名称	第 257 回日本泌尿器科学会関西地方会			
発表テーマ	膀胱腫瘍発症 10 年後に発症した膀胱直腸腫瘍の 1 例			
日時	2024 年 10 月 4 日	発表者	朝田一輝、飯田孝太、市居大季、 伊丹祥隆、細川幸成、藤本清秀	
場所	京都市			
会名称	第 74 回日本泌尿器科学会中部総会			
発表テーマ	当院での尿路感染症における DIC と体組成の関連についての検討			
日時	2024 年 11 月 21 日	発表者		

場所	金沢市		市居大季、朝田一輝、飯田孝太、伊丹祥隆、細川幸成、藤本清秀
会名称	第 74 回日本泌尿器科学会中部総会		
発表テーマ	上部尿路上皮癌に対する尿管鏡下腫瘍生検が腎尿管摘除術後膀胱内再発に与える影響についての検討		
日時	2024 年 11 月 23 日	発表者	飯田孝太、朝田一輝、市居大季、伊丹祥隆、細川幸成、藤本清秀
場所	金沢市		
会名称	第 38 回日本泌尿器内視鏡学会総会		
発表テーマ	TUL 術後の尿管ステント抜去後の有熱性尿路感染症とステント先端培養に関する検討		
日時	2024 年 11 月 30 日	発表者	伊丹祥隆、朝田一輝、市居大季、飯田孝太、細川幸成、藤本清秀
場所	千葉市		
会名称	第 38 回日本泌尿器内視鏡学会総会		
発表テーマ	CT 値により層別化した結石体積を用いた腎結石に対する ESWL の効果予測についての検討		
日時	2024 年 11 月 30 日	発表者	飯田孝太、朝田一輝、市居大季、伊丹祥隆、細川幸成、藤本清秀
場所	千葉市		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	耳鼻咽喉科
会名称	第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会			
発表テーマ	口蓋扁桃摘出術時に開口障害を来した咀嚼筋腱・腱膜過形成症の 1 例			
日時	2024/5/15-18	発表者	大野峻	
場所	大阪府、大阪市			
会名称	第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会			
発表テーマ	顎動脈が上顎洞後壁を穿破し止血に難渋した鼻出血症例			
日時	2024/5/15-18	発表者	天津久郎	
場所	大阪府、大阪市			
会名称	第 19 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会			
発表テーマ	滲出性中耳炎症例に対する経鼻内視鏡アデノイド切除術			
日時	2024/7/11-12	発表者	天津久郎、大野峻	
場所	三重県、伊勢市			
会名称	第 19 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会			
発表テーマ	生活習慣改善指導を行った小児前庭性片頭痛の 1 例			
日時	2024/7/11-12	発表者	大野峻、衣笠竜成、平山靖子、天津久郎	
場所	三重県、伊勢市			
会名称	第 63 回日本鼻科学会総会・学術講演会			
発表テーマ	下垂体・傍鞍部病変における経鼻内視鏡手術のチーム医療			
日時	2024/9/26-28	発表者	天津久郎、大野峻、平山靖子	
場所	東京都			
会名称	第 83 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会			

発表テーマ	めまいを主訴に当科を受診した中枢性めまい8症例の検討		
日時	2024/11/13-15	発表者	大野峻、衣笠竜成、天津久郎
場所	愛知県、名古屋市		
会名称	第369回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 大阪地方連合会		
発表テーマ	水痘帯状疱疹ウイルスにより両側同時性顔面神経麻痺を来したと考えられた1例		
日時	2025/2/1	発表者	大野峻、衣笠竜成、平山靖子、天津久郎
場所	大阪府、大阪市		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	形成外科
会名称	第 24 回形成外科集学医療技術研究会			
発表テーマ	痛風結節に起因して重症軟部組織感染症をきたした 1 例			
日時	2024 年 6 月 1 日	発表者	鈴木里咲	
場所	ホテルモントレグラスミア大阪			
会名称	第 137 回関西形成外科学会学術集会			
発表テーマ	Structure rhinoplasty を用いた青年期口唇顎口蓋裂外鼻形成術及び鼻腔形態改善手術			
日時	2024 年 12 月 14 日	発表者	築山隆弘	
場所	あべのハルカス			

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	放射線診断部
会名称	第1回日本放射線医療技術学術大会			
発表テーマ	電離箱線量計の極性交換理論に基づく新たな補正式の提案			
日時	2024年10月31日～2024年11月3日	発表者	田中 葵	
場所	沖縄			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	放射線治療科
会名称	第1回日本放射線医療技術学術大会			
発表テーマ	エラー収集機能を持った効率的な治療計画チェックシステムの構築			
日時	2024年10月31日-11月3日	発表者	中原 隆太	
場所	沖縄			
会名称	第1回日本放射線医療技術学術大会			
発表テーマ	出力モニタリングに使用する電離箱空洞内の温度変化がリニアックの出力測定に与える影響			
日時	2024年10月31日-11月3日	発表者	中坂 優太	
場所	沖縄			
会名称	日本放射線腫瘍学会第37回学術大会			
発表テーマ	脳腫瘍患者のIMRTにおける年代別セットアップエラーの解析			
日時	2024年11月21日-11月23日	発表者	古館 奈津希	
場所	神奈川			

会名称	日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会		
発表テーマ	Knowledge-based Planning を用いた前立腺癌 VMAT での半自動 2 段階最適化計算法の有用性		
日時	2024 年 11 月 21 日-11 月 23 日	発表者	中坂 優太
場所	神奈川		
会名称	日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会		
発表テーマ	特定認定看護師による前立腺寡分割照射における膀胱体積の再現性確保と医療被曝低減		
日時	2024 年 11 月 21 日-11 月 23 日	発表者	島田 千暁
場所	神奈川		
会名称	令和 6 年度近畿地域診療放射線技師会駆出大会		
発表テーマ	携帯型超音波診断装置による照射前膀胱体積評価が、前立腺癌の Image Guided Radiotherapy (IGRT) に及ぼす影響について		
日時	2025 年 2 月 9 日	発表者	郡田 遥司
場所	大阪		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	救急科
会名称	第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会			
発表テーマ	胆道感染症における血液培養の有用性に関する検討			
日時	2024 年 7 月 20 日	発表者	升井淳	
場所	鹿児島県・WEB 開催			
会名称	第 35 回日本疫学会学術総会			
発表テーマ	転倒関連負傷による高齢患者の救急搬送件数と患者特徴及び予後：大阪府全域を網羅した救急データベース解析			
日時	2025 年 2 月 12 日～14 日	発表者	升井淳	
場所	高知県			
会名称	第 30 回日本災害医学会総会・学術集会			
発表テーマ	DMAT 活動指揮の経験			
日時	2025 年 3 月 7 日	発表者	柳英雄	
場所	愛知県			
会名称	第 129 回近畿救急医学研究会（日本救急医学会近畿地方会）			
発表テーマ	胆道感染症における血液培養陽性率と培養結果別の患者特性、予後に関する検討			
日時	2025 年 3 月 20 日	発表者	升井淳	
場所	滋賀県			
会名称	第 129 回近畿救急医学研究会（日本救急医学会近畿地方会）			
発表テーマ	大麻中毒が原因で意識障害を来した 5 症例の検討			
日時	2025 年 3 月 20 日	発表者	橋本純子	
場所	滋賀県			

【学会発表】	施設：多根総合病院		部署：腫瘍内科
会名称	第9回日本がんサポーターブケア学会学術集会		
発表テーマ	Nivolumabによる扁平苔癬型薬疹をきたしステロイド全身投与が著効した一例		
日時	2023年5月18日～5月19日	発表者	北代紗也、中井大介、岡田佳也
場所	埼玉会館		
会名称	第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	当院におけるMSI検査とLynch症候群スクリーニングのための体制整備について		
日時	2024年5月31日～6月1日	発表者	岡田佳也、北代紗也、 植村未奈子、久寶麻衣子、 岩井裕香、其田学士
場所	仙台国際センター		
会名称	第30回日本遺伝性腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	当院における他職種での遺伝性腫瘍患者のフォロー体制構築について		
日時	2024年5月31日～6月1日	発表者	其田学士、岩井裕香、 植村未奈子、久寶麻衣子、 北代紗也、岡田佳也
場所	仙台国際センター		
会名称	第29回日本緩和医療学会学術大会		
発表テーマ	ステロイド、濃グリセリンが無効な乳癌のがん性髄膜炎患者の終末期症状緩和に成功した一例		
日時	2024年6月14日～6月15日	発表者	岡田佳也、北代紗也、 米谷晶子、 武内千秋、三木義仁
場所	神戸コンベンションセンター他		
会名称	第22回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	Practice of screening for Lynch syndrome-related tumors built from counseling a case		
日時	2025年3月6日～3月8日	発表者	Shoich Inoue, <u>Saya Kitashiro</u> , <u>Maiko Kubo</u> , <u>Minako Uemura</u> , <u>Yuka Iwai</u> , <u>Takashi Sonoda</u> , <u>Yoshinari Okada</u>
場所	神戸コンベンションセンター他		
会名称	第22回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	A case of gastric cancer with variety cutaneous irAEs, finally diagnosed as Lichen Planus Pemphigoides		
日時	2025年3月6日～3月8日	発表者	Kazuma Kitabata, <u>Saya Kitashiro</u> , <u>Daisuke Nakai</u> , <u>Minako Uemura</u> , <u>Maiko Kubo</u> , <u>Yuka Iwai</u> , <u>Takashi Sonoda</u> , <u>Yoshinari Okada</u>
場所	神戸コンベンションセンター他		
会名称	第22回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	薬剤師外来での重篤化を避けることができた2例		
日時	2025年3月6日～3月8日	発表者	岩井裕香、其田学士、 森本明美、 植村未奈子、久寶麻衣子、
場所	神戸コンベンションセンター他		

			<u>北代紗也、岡田佳也</u>
会名称	第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	皮下埋め込み型ポート留置患者に生じた合併症の検討		
日時	2025 年 3 月 6 日～3 月 8 日	発表者	<u>久寶麻衣子、植村未奈子、岩井裕香、其田学士、北代紗也、岡田佳也</u>
場所	神戸コンベンションセンター他		
会名称	第 2 回たねまきの会		
発表テーマ	在宅から緩和ケア病棟移行し穏やかに過ごされた一例		
日時	2024 年 11 月 1 日	発表者	<u>岡田佳也</u>
場所	多根総合病院 4 階会議室		
会名称	浪速区医師会学術講演会		
発表テーマ	がん疼痛の治療と緩和		
日時	2024 年 11 月 16 日	発表者	<u>岡田佳也</u>
場所	浪速区医師会学術講演会		

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	循環器内科
会名称	第 137 回日本循環器学会近畿地方会			
発表テーマ	冠動脈 CT 撮像から 5 年後に心筋梗塞を発症した一例における偏光測定所見			
日時	2024 年 5 月 25 日	発表者	杉岡和哉（他、大阪公立大学循環器内科）	
場所	大阪市			
会名称	日本不整脈心電学会 カテーテルアブレーション関連秋期大会 2024			
発表テーマ	右脚近位側に付着した遅伝導バイパス路を介する antidromic reciprocating tachycardia:narrow QRS 波形を呈した一例			
日時	2024 年 10 月 11 日	発表者	土井淳史	
場所	大阪市			
会名称	第 43 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会			
発表テーマ	右冠動脈瘤内の血栓塞栓による急性心筋梗塞の一例			
日時	2024 年 10 月 19 日	発表者	浅田一星、杉岡和哉、岩村世晴、塚本拓也、田中佐和、高岡奈央子、土井淳史、瓦林孝彦	
場所	大阪市			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	看護部
会名称	第 38 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会			
発表テーマ	前立腺全摘術からの看護介入の必要性			

日時	2024 年 11 月 29 日	発表者	藤井 愛子
場所	幕張メッセ		
会名称	第 39 回日本がん看護学会学術集会		
発表テーマ	認知機能低下のある高齢がん患者に対する訪問看護師の疼痛アセスメント		
日時	2025 年 2 月 22 日～2 月 23 日	発表者	岡根 絵美里
場所	グランドキュメール札幌大通公園		
会名称	日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会		
発表テーマ	特定認定看護師による前立腺寡分割照射における膀胱体積の再現性確保と医療被曝の低減		
日時	2024 年 11 月 21 日～11 月 23 日	発表者	島田 千暁
場所	パシフィコ横浜ノース		
会名称	第 12 回 大阪府看護学会		
発表テーマ	24 時間持続点滴が転倒に及ぼす影響		
日時	2024 年 12 月 7 日	発表者	矢通 美穂
場所	大阪府看護協会		
会名称	第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	皮下埋め込みポート留置患者に生じた合併症の検討		
日時	2025 年 3 月 6 日～3 月 8 日	発表者	久寶 麻衣子
場所	神戸コンベンションセンター		
会名称	STROKE2025		
発表テーマ	血栓回収療法におけるシミュレーション教育と動画教材を用いた看護師教育の効果		
日時	2025 年 3 月 6 日～3 月 8 日	発表者	岡本 咲里奈
場所	大阪国際会議場		
会名称	第 65 回 全日本病院学会		
発表テーマ	搬送アシストロボットの使用経験 -臨床現場における効果と導入課題-		
日時	2025 年 9 月 29 日	発表者	米倉 修司
場所	京都国際会議場		

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	医療技術部 中央検査部門
会名称	第 97 回日本超音波医学会学術集会			
発表テーマ	成人ファロー四徴症の 1 例について			
日時	2024/5/31～6/2	発表者	大下真由美	
場所	パシフィコ横浜			
会名称	第 63 回日臨技近畿支部医学検査学会			
発表テーマ	Actinomyces israelii を検出したくも膜下膿瘍の一例			
日時	2024/11/3～4	発表者	下田千春	

場所	大阪府立国際会議場		
----	-----------	--	--

【学会発表】	施設：	総合病院	部署：	皮膚科
会名称	第 507 回日本皮膚科学会大阪地方会			
発表テーマ	当科で経験したサイトメガロウイルス初感染を疑った 4 例			
日時	2025/2/8（土）	発表者	安田恭輔、中井大介	
場所	大阪府、大阪市			

【学会発表】	施設：	多根総合病院	部署：	卒後臨床研修センター
会名称	第 107 回日本消化器内視鏡学会総会			
発表テーマ	胆嚢癌による肝門部悪性胆管閉塞に対し EUS-hepaticogastrostomy with bridging を施行した一例			
日時	2024 年 5 月 31 日	発表者	中野 遥星	
場所	グランドプリンスホテル新高輪			
会名称	第 60 回日本肝臓学会総会			
発表テーマ	心窩部痛を契機に診断された早期梅毒性肝炎の 1 例			
日時	2024 年 6 月 13 日	発表者	内山 千晴	
場所	熊本城ホール			
会名称	第 654 回大阪外科集談会			
発表テーマ	絞扼性腸閉塞との鑑別を要した、小腸アニサキス症の 1 例			
日時	2024 年 7 月 27 日	発表者	杉村 大地	
場所	大阪大学中之島センター			
会名称	第 43 回日本心血管インターベンション治療学会 近畿地方会			
発表テーマ	右冠動脈瘤内の血栓閉塞による急性心筋梗塞の一例			
日時	2024 年 10 月 19 日	発表者	浅田 一星	
場所	ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター			
会名称	第 655 回大阪外科集談会			
発表テーマ	腹腔鏡手術後の遅発性下腹壁動脈出血の 1 例			
日時	2024 年 11 月 9 日	発表者	山口 瑛大	
場所	大阪大学中之島センター			
会名称	第 86 回日本臨床外科学会学術集会			
発表テーマ	先天性胃嚢胞から発生した胃癌の症例			
日時	2024 年 11 月 21 日-23 日	発表者	三好 拓也	
場所	ライトキューブ宇都宮			
会名称	第 86 回日本臨床外科学会学術集会			
発表テーマ	胃癌術後に Petersen hernia 嵌頓による輸入脚症候群（臍炎）を発症した 1 例			

日時	2024 年 11 月 21 日-23 日	発表者	河本 知樹
場所	ライトキューブ宇都宮		
会名称	日本神経学会 第 129 回近畿地方会		
発表テーマ	マイコプラズマ肺炎との関連が推測される抗 MOG 抗体陽性脊髄炎の 1 例		
日時	2024 年 12 月 7 日	発表者	飯田 堇子
場所	千里ライフサイエンスセンター		
会名称	第 113 回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会		
発表テーマ	内科的加療で改善が得られた十二指腸憩室穿孔の一例		
日時	2024 年 12 月 7 日	発表者	中田 和希
場所	大阪国際交流センター		
会名称	第 507 回日本皮膚科学会大阪地方会		
発表テーマ	当科で経験したサイトメガロウイルス初感染を疑った 4 例		
日時	2025 年 2 月 8 日	発表者	安田 恭輔
場所	オービックホール（大阪市中央区）		
会名称	第 122 回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会		
発表テーマ	同時に 3 箇所の小腸重積をきたした 1 例		
日時	2025 年 2 月 15 日	発表者	谷口 拓摩
場所	京都テルサ		
会名称	第 122 回日本消化器内視鏡学会 近畿支部例会		
発表テーマ	術後 10 年で局所再発し、肝膿瘍を契機に診断された遠位胆管癌の一例		
日時	2025 年 2 月 15 日	発表者	藤本 尊秀
場所	京都テルサ		
会名称	第 21 回日本消化管学会総会学術集会		
発表テーマ	下部内視鏡検査後に発症した成人腸重積の一例		
日時	2025 年 2 月 21 日-22 日	発表者	永尾 祐貴
場所	京王プラザホテル		
会名称	日本神経学会 第 129 回近畿地方会		
発表テーマ	小脳と視床にも病変を伴い、脊髄炎と脊髄梗塞の鑑別に苦慮した一例		
日時	2025 年 3 月 2 日	発表者	秦泉寺 皓晟
場所	千里ライフサイエンスセンター		
会名称	第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ	Lynch 症候群関連腫瘍患者の血縁者の遺伝カウンセリングから構築した 当院の Lynch 症候群関連腫瘍スクリーニングの実際		
日時	2025 年 3 月 6 日-8 日	発表者	井上 正一
場所	神戸国際会議場		
会名称	第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会		
発表テーマ			

	経時的に多彩な皮膚症状を呈し、最終的に Lichen Planus Pemphigoides と診断した 胃癌の一例		
日時	2025 年 3 月 6 日-8 日	発表者	北端 一磨
場所	神戸国際会議場		
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	上腸間膜動脈塞栓症に対して血管内治療が奏功した 1 例		
日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	宮尾 哉希
場所	ウインクあいち		
会名称	第 61 回日本腹部救急医学会総会		
発表テーマ	十二指腸憩室穿孔に対して保存的加療で改善し得た一例		
日時	2025 年 3 月 20 日-21 日	発表者	山上 弘世
場所	ウインクあいち		

【学会発表】	施設：総合病院				部署：薬剤部
会名称	第 30 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会				
発表テーマ	当院における多職種での遺伝性腫瘍患者のフォロー体制構築について				
日時	2024 年 5 月 31 日～6 月 1 日		発表者	其田 学士	
場所	仙台国際センター				
会名称					
発表テーマ	薬剤師としての職能が DMAT 派遣において有用であった経験				
日時	2025 年 3 月 6～3 月 8 日		発表者	岩井 裕香	
場所	名古屋国際展示場				
会名称					
発表テーマ	薬剤師外来で有害事象の重篤化を避けることができた 2 例				
日時	2025 年 3 月 6～3 月 8 日		発表者	岩井 裕香	
場所	神戸コンベンションセンター				

【執筆・論文】

【執筆・論文】	施設：	総合病院	部署：	消化器内科
掲載誌名	Thieme Endoscopy E-Videos			
執筆・論文 タイトル	Pre-incision traction method using clip-and-thread for gastric endoscopic submucosal dissection			
著者	Eisuke Nakao, Satoshi Asai, Ayumu Chaen, Tomoya Hashimura, Yuma Fujita, Eisuke Akamine	掲載号 掲載年等	57(S 01), E71-E72, 2025.1 doi:10.1055/a-2512- 4706.	
掲載誌名	Digestive Diseases and Sciences			
執筆・論文 タイトル	Uncovered Self-Expandable Metallic Stent with an Ultra-Thin Delivery Sheath in Unresectable Malignant Hilar Biliary Obstruction: A Multicenter Prospective Observational Study			

著者	Kotaro Takeshita, Susumu Hijioka, Kenji Ikezawa, Takeshi Ogura, Masaki Kuwatani, Nao Fujimori, et al.	掲載号 掲載年等	2025. 2 doi:10.1007/s10620-025-08898-z.
掲載誌名	消化器内視鏡		
執筆・論文 タイトル	特集 大腸内視鏡 挿入・観察 A to Z [挿入を補助するツール] 浸水法		
著者	浅井 哲, 島 佳弘, 久松健人, 橋村友哉, 藤田裕真, 大舘秀太, 松尾健司, 竹下宏太郎, 中尾栄祐, 赤峰瑛介	掲載号 掲載年等	37(3), 367-371, 2025. 3

【執筆・論文】	施設：	総合病院	部署：	外科
掲載誌名	精神科治療学			
執筆・論文 タイトル	帯状疱疹後神経痛に処方されていた duloxetine 中止により SSRI 中断症候群と同様の中断症状を認めた一例			
著者	柄池真規子		掲載号 掲載年等	39(5), 555-558, 2025. 5
掲載誌名	日本臨床外科学会雑誌			
執筆・論文 タイトル	陰茎転移をきたした直腸癌の1例			
著者	實近侑亮, 小川淳宏, 廣部雅臣, 森 琢児, 小川 稔, 丹羽英記, 橋本和明, 吉原 渡		掲載号 掲載年等	85(8), 1110-1115 2024. 8

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	整形外科
掲載誌名	整形外科 Surgical Technique			
執筆・論文 タイトル	関節鏡視下肩鎖関節 3 重束再建術 2 重束烏口鎖骨靱帯再建+Neviaser 変法			
著者	永井 宏和		掲載号 掲載年等	vol.14 No.3 p316-p325
掲載誌名	肩関節			
執筆・論文 タイトル	肩鎖関節脱臼 3 重束靱帯再建術における内外側方向安定性の検討			
著者	永井 宏和 中島 亮 松村 健一 米田 真悟 城内 泰造 藤原 圭 今井 晋二		掲載号 掲載年等	第 48 巻 第 1 号 p28- p32

【執筆・論文】	施設：	総合病院	部署：	脳神経外科
掲載誌名	Medicine (Baltimore)			

執筆・論文 タイトル	Self-inflicted very-low-velocity penetrating head injury: A CARE-compliant case report.		
著者	Ota K, Kobata H, Tomonishi S, Ota K, Takasu A.	掲載号 掲載年等	2024;103(18):e37896.
掲載誌名	Journal of Clinical Medicine		
執筆・論文 タイトル	Clinical Insights and Future Directions in Hypothermia for Severe Traumatic Brain Injury: A Narrative Review.		
著者	Kobata H.	掲載号 掲載年等	2024;13(14):4221.
掲載誌名	The American Journal of Emergency Medicine		
執筆・論文 タイトル	Treatment strategies for patients with out-of-hospital cardiac arrest associated with traumatic brain injury: A case series.		
著者	Kobata H, Sugie A, Kawakami M, Tanaka S, Sarapuddin G, Tucker A.	掲載号 掲載年等	2024;82:8-14.
掲載誌名	日本神経救急医学会雑誌		
執筆・論文 タイトル	外来心停止から社会復帰を果たした多発外傷の1例。 心臓血管外科，消化器外科，脳神経外科による協働と治療戦略。		
著者	小畑仁司，杉江亮， 秋元 寛，西本昌義，川上真樹子.	掲載号 掲載年 等	2024; 36 (2): 7-11.
掲載誌名	みんなが知りたい意識障害がわかる本		
執筆・論文 タイトル	入院後，意識がすぐに回復しないときは？		
著者	小畑仁司	掲載号 掲載年等	pp107-111, 2024
掲載誌名	Therapeutic Hypothermia and Temperature Management		
執筆・論文 タイトル	Progress of Brain Hypothermia Treatment for Severe Subarachnoid Hemorrhage-177 Cases Experienced and a Narrative Review.		
著者	Kobata H.	掲載号 掲載年等	2024 Sep 10. doi: 10.1089/ther.2024.0037.
掲載誌名	大阪医科薬科大学医学会雑誌		
執筆・論文 タイトル	重症脳損傷患者に対する脳低温療法		
著者	小畑仁司	掲載号 掲載年等	2024; 83(1) 29-39
掲載誌名	World Neurosurgery		

執筆・論文 タイトル	High Plasma D-Dimer Levels Correlate with Ictal Infarction and Poor Outcomes in Spontaneous Subarachnoid Hemorrhage.		
著者	Kobata H, Sugie A, Tucker A, Sarapuddin G, Kimura H, Takeshita H, Morihara M, Kawakami M.	掲載号 掲載年等	2024;190:e809-e822.

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	腫瘍内科
掲載誌名	J Gastrointest Oncol.			
執筆・論文 タイトル	Preferred and Actual Places of Death Among Patients with Advanced Cncer: A Single-centre Cohort Study in Japan			
著者	Tomoo Ikari, <u>Yoshinari Okada</u> , Akira Inoue et al		掲載号 掲載年 等	2024;Aug08;30(3):268-274

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	泌尿器科
掲載誌名	Japanese Journal of Endourology and Robotics			
執筆・論文 タイトル	ECIRS における吸引式アクセスシース：Clear Petra® と従来型シースとの比較検討			
著者	伊丹祥隆、市居大季、吉川貴之祐、飯田孝太、岩尾朋治、西村伸隆、中濱智則、百瀬 均、平尾周也、細川幸成、藤本清秀		掲載号 掲載年 等	(37) 344-352, 2024
掲載誌名	Japanese Journal of Endourology and Robotics			
執筆・論文 タイトル	上部尿路上皮癌の診断における選択的尿細胞診，尿管鏡検査の有用性についての検討			
著者	飯田孝太、細川幸成、市居大季、吉川貴之祐、伊丹祥隆、藤本清秀		掲載号 掲載年 等	(37) 363-368, 2024
掲載誌名	泌尿紀要			
執筆・論文 タイトル	治療に難渋した Mycoplasma genitalium 尿道炎の 1 例			
著者	吉川貴之祐、伊丹祥隆、朝田一輝、市居大季、飯田孝太、細川幸成、藤本清秀		掲載号 掲載年 等	(70) 387-390, 2024
掲載誌名	泌尿器外科			
執筆・論文 タイトル	保存的加療が可能であった StageⅢ黄色肉芽腫性腎盂腎炎の 1 例			
著者	林 百合子、飯田孝太、朝田一輝、伊丹祥隆、市居大季、吉川貴之祐、細川幸成、藤本清秀		掲載号 掲載年 等	(37) 1163-1167, 2024

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	放射線治療科
掲載誌名	Radiological Physics and Technology			
執筆・論文 タイトル	A multi-institutional survey on technical variations in total body irradiation in Japan			
著者	M. Kitagawa, R. Notake, R. Nakahara, S. Hatanaka, T. Saho, K. Matsuda	掲載号 掲載年等	18, (2025) 347-357	

【執筆・論文】	施設：	多根総合病院	部署：	看護部
掲載誌名	特定行為看護			
執筆・論文 タイトル	特定看護師の主体的活動のための支援体制とメンタルサポート			
著者	宮崎 悠	掲載号 掲載年等	Vol.1 No.3 2025年3月20日 発行	
掲載誌名	主任看護師 Style			
執筆・論文 タイトル	主任看護師が知っておきたい自部署の感染管理・対策			
著者	宮崎 悠	掲載号 掲載年等	第34巻第3号 2025年1月30 日発行	
掲載誌名	日総研 重症集中ケア			
執筆・論文 タイトル	ワーク・ライフ・バランスを尊重した職場環境とは			
著者	米倉 修司	掲載号 掲載年等	2025年2月3月号（第23巻第 6号）	
掲載誌名	日総研 重症集中ケア			
執筆・論文 タイトル	後輩に気づきを与えるためのアプローチとは？			
著者	米倉 修司	掲載号 掲載年等	2024年6月7月号（第23巻第 2号）	